

【道路建設課所管事業審議資料】

- 再評価対象箇所一覧表 p 5

- 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について
道路改築事業（社会資本整備総合交付金） p 6

- 平成24年度 再評価実施箇所（附図）
 - 道路改築事業（主）岐阜美濃線 小島山工区 p 7
 - 道路改築事業（国）417号 横山・鶴見バイパス p 8
 - 道路改築事業（主）白川福岡線 黒川工区 p 9
 - 道路改築事業（国）248号 大針拡幅 p 10
 - 道路改築事業（主）土岐可児線 五斗蒔工区 p 11
 - 道路改築事業（一）肥田下石線 土岐津・下石工区 p 12

- パワーポイント
 - 道路改築事業（主）岐阜美濃線 小島山工区 p 14～p 23
 - 道路改築事業（国）417号 横山・鶴見バイパス p 24～p 31
 - 道路改築事業（主）白川福岡線 黒川工区 p 32～p 37
 - 道路改築事業（国）248号 大針拡幅 p 38～p 45
 - 道路改築事業（主）土岐可児線 五斗蒔工区 p 46～p 53
 - 道路改築事業（一）肥田下石線 土岐津・下石工区 p 54～p 59

平成24年度 再評価対象箇所一覧表10月30日審議箇所

[県土整備部道路建設課]

番号	事業名	路線・河川名	市町村名	採択年度	完了予定年度	事業概要		経過年数 (H25.3現在)	政策との位置付け	関連事業の進捗状況	社会経済情勢等の変化及び地域の意向	環境との調和への配慮事項	事業費削減	費用対効果分析	対応方針(案)	特記事項				
						全体事業量 (km)	事業実施量 (km)													
		実施済み額 (百万円)		進捗率 (%)		経過年数		環境との位置付け		社会経済情勢等の変化及び地域の意向		事業費削減		費用対効果分析		対応方針(案)				
		用地補償費		用地補償費		用地補償費		用地補償費		用地補償費		用地補償費		用地補償費		用地補償費		用地補償費		
		工事費等		工事費等		工事費等		工事費等		工事費等		工事費等		工事費等		工事費等		工事費等		
1	道路改築事業(社会資本整備総合交付金)	(主)岐阜美濃線 小島山	岐阜市	H19	H27	1.7	0.0	0.0%	3,300 200 3,100	1,271 169 1,102	39% 85% 36%	6年	高速道路へのアクセス向上 七ヶ浜に有刺に網化するネットワークの確保	-	促進要望強い	希少猛禽類に配慮した工事実施	現場発生土の有効利用	3.6 (一)	継続	
2	道路改築事業(社会資本整備総合交付金)	(国)417号 横山鶴見バイパス	揖斐郡 揖斐川町	H20	H28以降	1.3	0.0	0.0%	3,920 45 3,875	1,330 45 1,285	34% 100% 33%	5年	県土1700m規格標準ネットワーク構築の推進 有刺時に有刺に網化するネットワークの確保	-	促進要望強い	希少猛禽類に配慮した工事実施	橋梁下部工施工時期の調整	1.1 (一)	継続	
3	道路改築事業(社会資本整備総合交付金)	(主)白川福阿線 黒川	加茂郡 白川町	H14	H28以降	1.6	0.0	0.0%	1,414 172 1,242	757 172 585	54% 100% 47%	11年	有刺時に有刺に網化するネットワークの確保 線形不良箇所を解消による円滑な交通の確保	-	促進要望強い	LED照明の採用	現場発生土の有効利用	1.3 (一)	継続	
4	道路改築事業(社会資本整備総合交付金)	(国)248号 大針幅	多治見市	H14	H28以降	1.5	0.0	0.0%	1,500 80 1,420	400 74 326	27% 93% 23%	11年	県土1700m規格標準ネットワーク構築の推進 有刺時に有刺に網化するネットワークの確保	-	促進要望強い	LED照明の採用	現場発生土の有効利用	1.3 (一)	継続	
5	道路改築事業(社会資本整備総合交付金)	(主)土岐可児線 五斗舞	土岐市	H20	H28以降	1.5	0.4	26.7%	1,630 352 1,278	1,008 294 714	62% 84% 56%	5年	高速道路へのアクセス向上 七ヶ浜に有刺に網化するネットワークの確保 線形不良箇所を解消による円滑な交通の確保	-	促進要望強い	施工法面の嵩地回復に配慮	現場発生土の有効利用	1.7 (一)	継続	
6	道路改築事業(社会資本整備総合交付金)	(一)肥田下石綿 土岐津・下石	多治見市 土岐市	H10	H28以降	4.2	0.0	0.0%	14,581 2,970 11,611	5,988 2,207 3,781	41% 74% 33%	15年	高速道路へのアクセス向上 七ヶ浜に有刺に網化するネットワークの確保 線形不良箇所を解消による円滑な交通の確保	-	促進要望強い	希少植物の保全 希少猛禽類に配慮した工事実施	現場発生土の有効利用	1.2 (1.9)	継続	

※()は前回B/C

平成24年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

課名 道路建設課

○事業制度について	事業名	道路改築事業（社会資本整備総合交付金）	
	事業目的	地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ること。	
	採択基準	地域住民の日常生活の安全性若しくは利便性の向上を図るために必要であり、又は快適な生活環境の確保若しくは地域の活力の創造に資すると認められるもの。	
	概要 (メニュー)	現道の拡幅や線形改良またはバイパス等の建設	
○費用対効果の分析について *費用便益B/C*	効果の項目	うち 貨幣換算する項目 ≒B≒	<ul style="list-style-type: none"> ・走行時間短縮便益 ・走行経費減少便益 ・交通事故減少便益
		その他項目	
	費用 ≒C≒ の算定	<ul style="list-style-type: none"> ・費用の積み上げ基準＝道路整備に要する事業費＋道路維持管理に要する事業費 現在価値算出のための社会的割引率：4% 基準年次：評価時点 検討年数：50年間 	
	費用便益比の基準	費用便益比（B/C）1.0以上	

平成24年度 再評価実施箇所 (附図)

担当課〔道路建設課〕

番 号	1	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業 (社会資本整備総合交付金) 主要地方道 岐阜美濃線 小島山区		
事業実施箇所	岐阜市中川原 ～岐阜市長良古津		事業主体	岐阜県	
採択年度	平成19年度	完了予定年度	平成27年度		
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業				
事業目的	<p>主要地方道岐阜美濃線は、岐阜市を起点とし美濃市に至る延長約22kmで、緊急輸送道路にも指定されている重要な幹線道路である。当該事業は、このうち平成24年4月に無料化された長良川右岸道路から現道岐阜美濃線に至る区間を整備するものであり、東海環状自動車道(関広見IC)・東海北陸自動車道(関IC)へのアクセス向上、現道に代わる新たな緊急輸送路の確保、過去の災害に対応した緊急輸送路の強化、隘路箇所の解消による安全・安心な交通の確保を目的としている。</p>				
事業概要	<p>事業延長：1703m 車道幅員：3.25m×2車線 主要構造物：小島山トンネル L=479m、ランプ部(橋梁) L=67m</p>				
概要図	<p>至 山県市</p> <p>至 関市</p> <p>至 国道156号</p> <p>(写真①:起点側の施工状況)</p> <p>(写真②:トンネルの施工状況)</p>				

平成24年度 再評価実施箇所 (附図)

担当課〔道路建設課〕

番 号	2	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業 (社会資本整備総合交付金) 一般国道417号 横山鶴見バイパス	
事業実施箇所	いびぐんいびがわちようひがしよこやま 揖斐郡揖斐川町東横山 ～いびぐんいびがわちようつるみ ～揖斐郡揖斐川町鶴見		事業主体	岐阜県
採択年度	平成20年度	完了予定年度	平成28年度以降	
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業			
事業目的	<p>一般国道417号は岐阜県大垣市を起点とし、福井県南条郡南越前町へ至る延長約99kmの道路である。当該事業はこのうち揖斐川町東横山から揖斐川町鶴見の1,300m区間についてバイパスを整備するものであり、隣接県(福井県)との連携及び圏域間の連携強化に寄与、観光施設へのアクセス向上、観光振興への期待、災害により集落が孤立することを解消、隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保を目的としている。</p>			
事業概要	<p>事業延長：1,300m 車道幅員：2.75m×2車線 主要構造物：新川尻橋L=195m、横山トンネルL=530m (※構造物名は仮称)</p>			
概要図	<p>国道417号</p> <p>終点 揖斐郡揖斐川町鶴見</p> <p>写真①</p> <p>横山トンネル L=530m</p> <p>一般国道417号横山鶴見バイパス L=1,300m</p> <p>新川尻橋 L=195m</p> <p>写真②</p> <p>起点 揖斐郡揖斐川町東横山</p> <p>揖斐川町</p> <p>国道303号</p> <p>岐阜県</p> <p>1:15000 200m</p> <p>■ 事業区間 ■ 一般国道 ■ 主要地方道 ■ 一般県道</p> <p>(写真①: 終点側現道の状況) (写真②: 起点側現道の状況)</p>			

平成24年度 再評価実施箇所 (附図)

担当課 [道路建設課]

番 号	3	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業 (社会資本整備総合交付金) 主要地方道 白川福岡線 黒川工区	
事業実施箇所	か も く し ら か わ ち ょ う く り が わ 加茂郡白川町黒川 ～ か も く し ら か わ ち ょ う く り が わ ～加茂郡白川町黒川		事業主体	岐阜県
採択年度	平成14年度	完了予定年度	平成28年度以降	
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業			
事業目的	<p>主要地方道白川福岡線は岐阜県加茂郡白川町を起点とし、岐阜県中津川市に至る延長約30kmの道路である。当該事業はこのうち白川町黒川地区の約1,640mについてバイパスを整備するものであり、災害時に有効に機能するネットワークの確保、隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保を目的としている。</p>			
事業概要	<p>事業延長：1,640m 車道幅員：3.00m×2車線 歩道幅員：2.50m (片側) 主要構造物：黒川1号橋 L=57m、黒川2号橋 L=47m (※構造物名は仮称)</p>			
概要図	<p>主要地方道 白川福岡線 黒川工区 L=1,640m</p> <p>起点 加茂郡白川町黒川</p> <p>終点 加茂郡白川町黒川</p> <p>黒川1号橋 L=55m</p> <p>黒川2号橋 L=47m</p> <p>白川町</p> <p>(主) 白川福岡線</p> <p>写真①</p> <p>写真②</p> <p>写真①: 終点側の現道状況</p> <p>写真②: 現道状況</p> <p>■ 事業区間 ■ 一般国道 ■ 主要地方道 ■ 一般県道</p>			

平成24年度 再評価実施箇所 (附図)

担当課〔道路建設課〕

番 号	4.	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業 (社会資本整備総合交付金) 一般国道248号 大針拡幅	
事業実施箇所	多治見市北丘町 ～多治見市大針町		事業主体	岐阜県
採択年度	平成14年度	完了予定年度	平成28年度以降	
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間に経過した時点で継続中の事業			
事業目的	<p>一般国道248号は、愛知県蒲郡市を起点とし、多治見市、可児市、美濃加茂市、関市を經由し、岐阜市に至る延長約112km (県内延長約40km) で、緊急輸送道路にも指定されている重要な幹線道路である。当該事業は、多治見市から美濃加茂市に至る一部区間を4車線化整備するものであり、隣接県との連携及び圏域間の連携強化に寄与、東海環状自動車道を補完する幹線道路の整備、災害時の緊急活動を支援を目的としている。</p>			
事業概要	<p>事業延長：1,540m 車道幅員：3.50m×2車線</p> <p>主要構造物：橋梁 L=45m</p>			
概要図				

平成24年度 再評価実施箇所 (附図)

担当課 [道路建設課]

番 号	5	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業 (社会資本整備総合交付金) 主要地方道 土岐可児線 五斗蒔工区
事業実施箇所	土岐市泉町久尻五斗蒔 ～土岐市泉町久尻五斗蒔		事業主体 岐阜県
採択年度	平成20年度	完了予定年度	平成28年度以降

再評価の実施基準 事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業

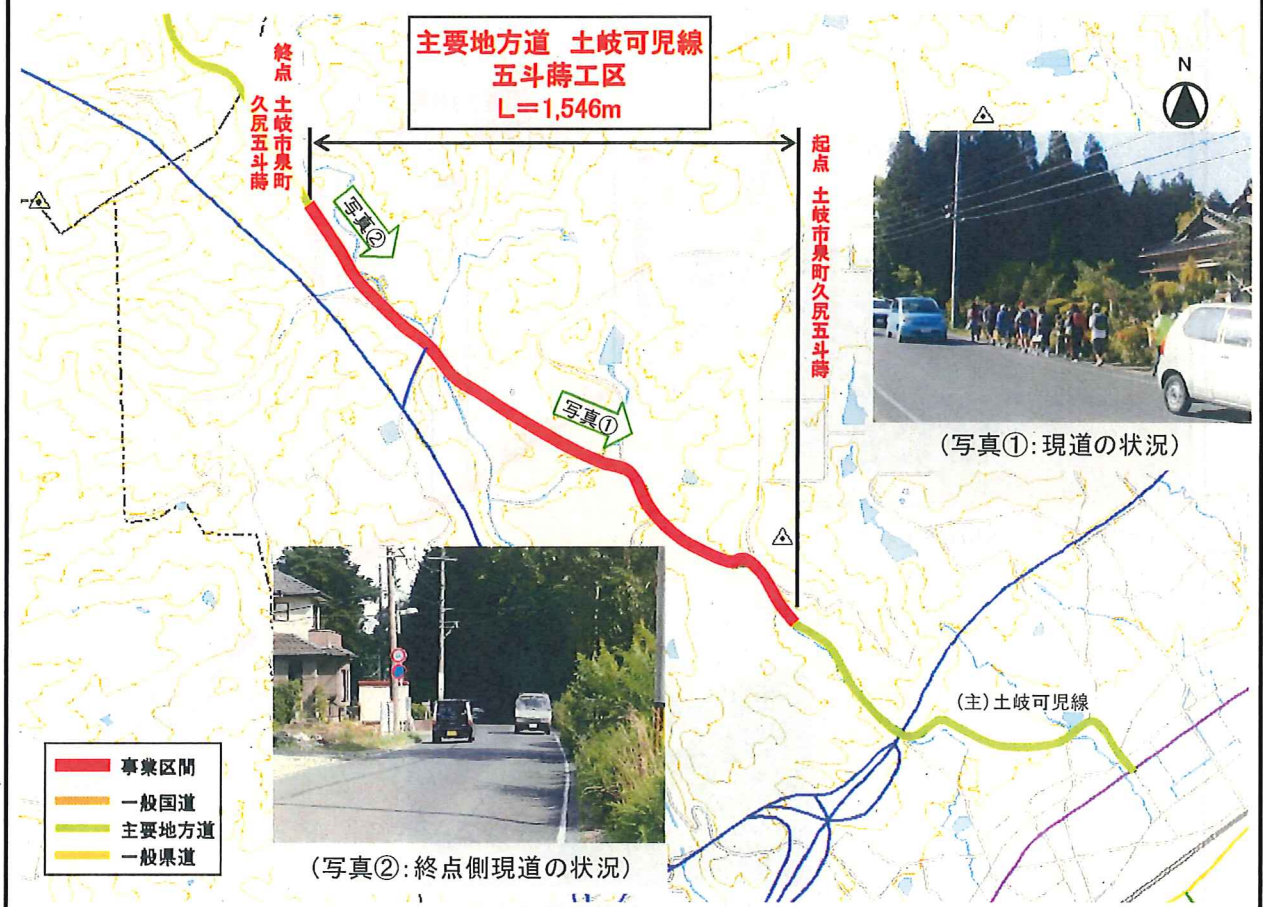
事業目的

主要地方道土岐可児線は岐阜県土岐市を起点とし、岐阜県可児市に至る延長約19kmの幹線道路である。当該事業はこのうち土岐市泉町久尻五斗蒔の1,546m区間を2車線拡幅するものであり、東海環状自動車道、中央自動車道へのアクセス向上、沿線工業団地等からのアクセス向上、企業活動支援、狭隘区間の解消による円滑な交通の確保を目的としている。

事業概要

事業延長：1,546m 車道幅員：3.00m×2車線
歩道幅員：2.50m (片側)

概要図



平成24年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	6	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業（社会資本整備総合交付金） 一般県道 肥田下石線 土岐津・下石工区
事業実施箇所	多治見市下沢町 ～土岐市下石町	事業主体	岐阜県
採択年度	平成10年度	完了予定年度	平成28年度以降
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年間が経過した時点で継続中の事業		
事業目的	<p>一般県道肥田下石線は、土岐市を起終点とする延長約8kmの幹線道路であり、東濃西部都市間連絡道路の一部を形成するものである。東濃西部都市間連絡道路とは、東濃西部地域における新たな都市拠点である土岐プラズマ・リサーチパークと多治見市、瑞浪市、土岐市の市街地を結び、また東海環状自動車道土岐南多治見インターチェンジへのアクセス道路として、かつ国道19号を補完する東西軸として重要な道路である。本事業は、上記のうち土岐南多治見インターを中心に多治見市下沢町から土岐市下石町までの約4.2km区間について、先行的に岐阜県が事業着手したものであり、東海環状自動車道（土岐南多治見IC）へのアクセス向上と新たな地域開発の支援、国道19号の代替路として機能を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：4,200m 車道幅員：3.25m×2車線、歩道3.0m 主要構造物：本線2号橋L=43m、本線3号橋L=136m、本線4号橋L=95m</p>		
概要図	 <p>(写真:計画状況)</p> <p>東濃西部都市間連絡道路</p> <p>(一) 肥田下石線 土岐津工区・下石工区 L=4200m</p>		

平成25年度 岐阜県の道路整備について

平成24年10月

岐阜県 県土整備部 道路建設課

岐阜県における道路事業の整備方針(重点目的)

考え方

道路は、災害に強い県土づくりなど安全・安心の面でも、産業振興や観光交流など「活力」を支える基盤としても、また、通学路や福祉施設へのアクセス整備など教育や福祉の面においても、多面的に県民の生活を守り支えているものであり、その整備は、国や県の重要な責務として着実に推進することが基本である。

また、厳しい財政状況、限られた予算の中で、効率的、効果的な道路整備を地域バランスに配慮しながら計画的に行い、地域の課題に的確に対応していくよう努めている。

重点目標

岐阜県では、平成18年度に策定した「県土整備ビジョン」を踏まえつつ、「活力」、「安全・安心」を重点目標とし、道路整備に取り組んでいる。

活力

●物流・観光、地域経済の持続的発展の基礎となる道路整備

- ・県土1700km骨格幹線ネットワーク構想の推進
- ・渋滞緩和による円滑な交通の確保
- ・観光交流や産業振興の推進
- ・高速道路へのアクセス向上

安全・安心

●災害に強い県土づくりの根幹となる道路整備

●地域の生活を支え、人に優しい安全で快適なまちづくりを支える道路整備

- ・災害時に有効に機能するネットワークの確保
- ・雨量規制区間の解消
- ・隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保

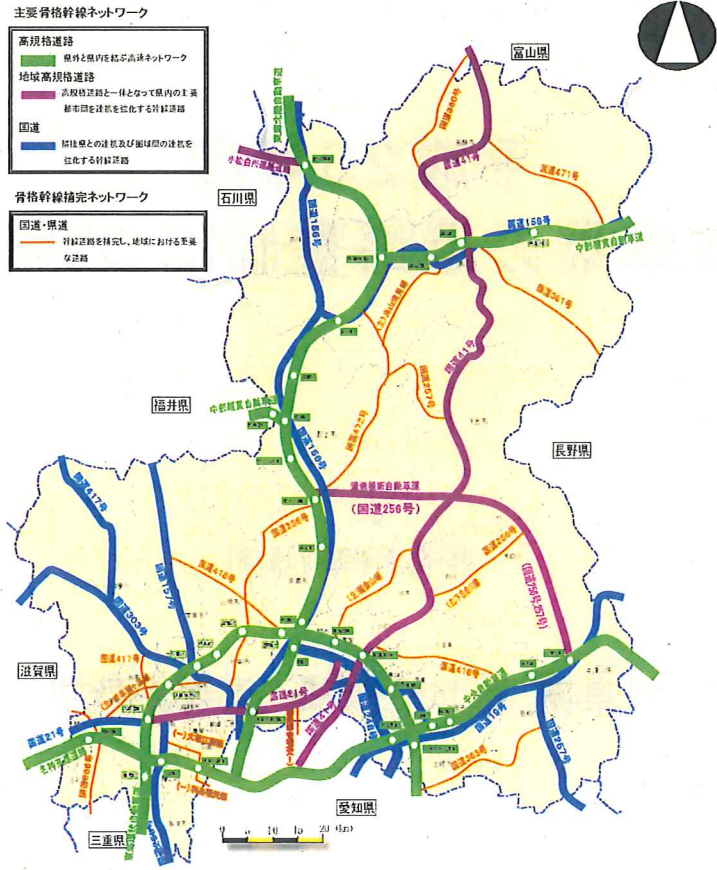
道路事業の整備方針 ～県土1700km骨格幹線ネットワーク構想～

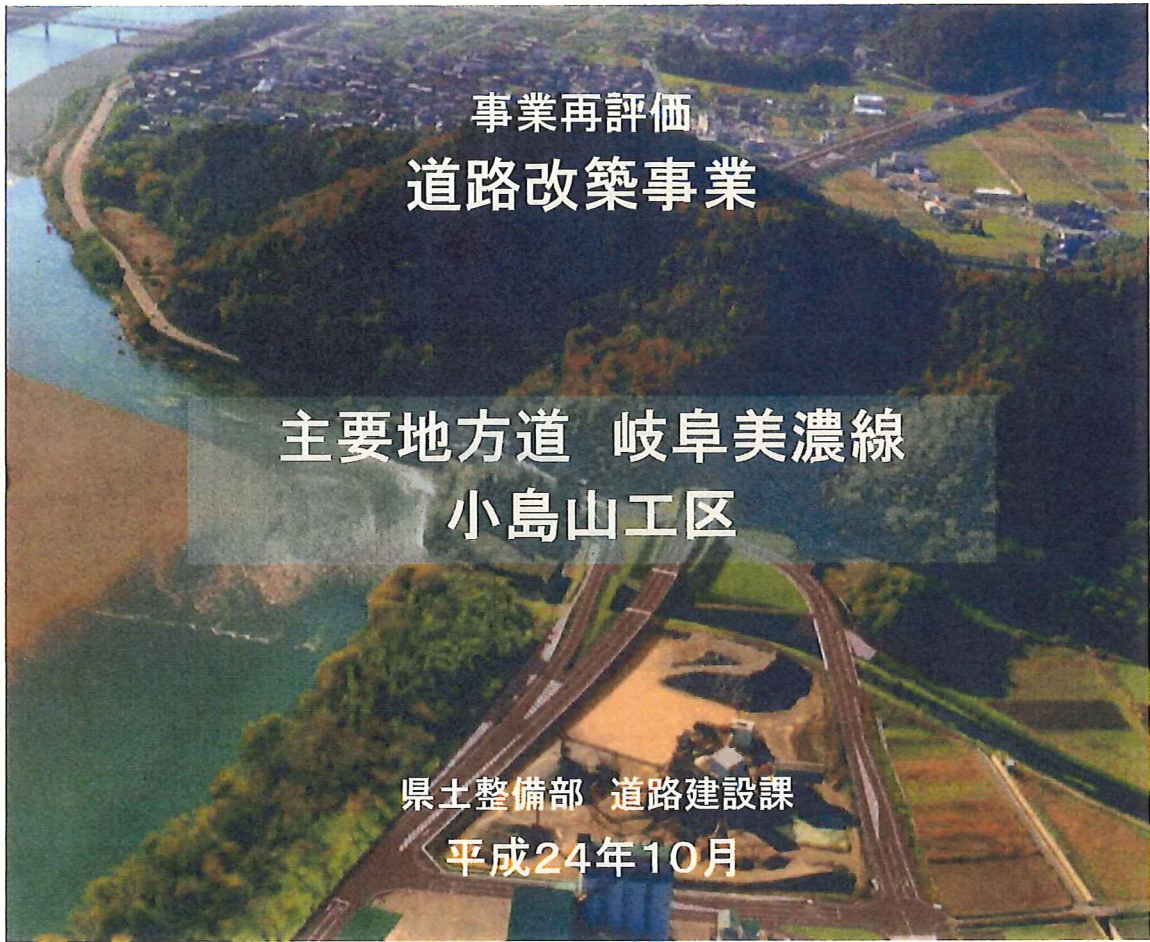
主要骨格幹線ネットワーク

- 高規格道路
県外と県内を結ぶ高速ネットワーク
- 地域高規格道路
高規格道路と一体となって県内の主要都市圏を連結する幹線道路
- 国道
県外との連結及び圏域間の連結を担う幹線道路

骨格幹線補完ネットワーク

- 国道・県道
幹線道路を補完し、地域における主要な道路

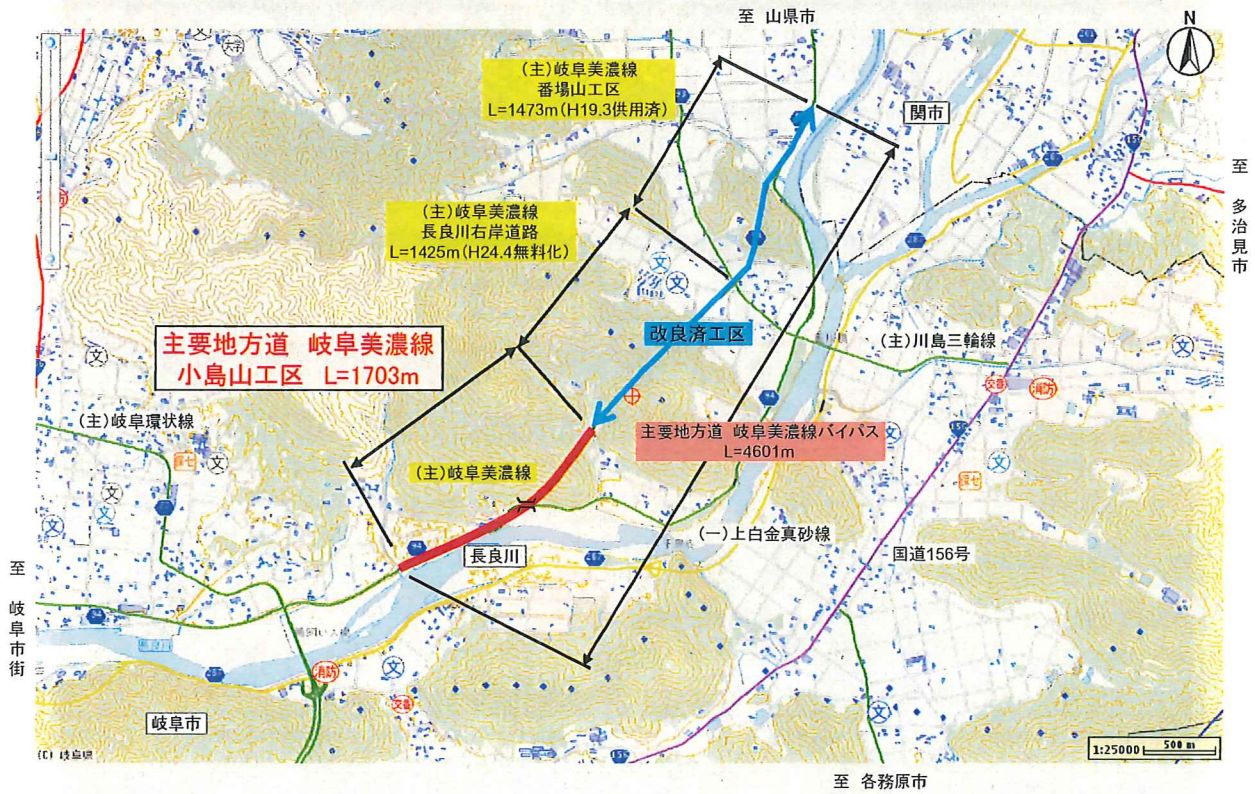




位置図 ①



位置図②



2

位置図③



3

事業概要

◆起 終 点：岐阜市中川原ぎふし なかがわら～岐阜市長良古津ぎふし ながらふるつ

◆全体延長：1 7 0 3 m

(トンネル延長L = 4 7 9 m、ランプ橋延長L = 6 7 m)

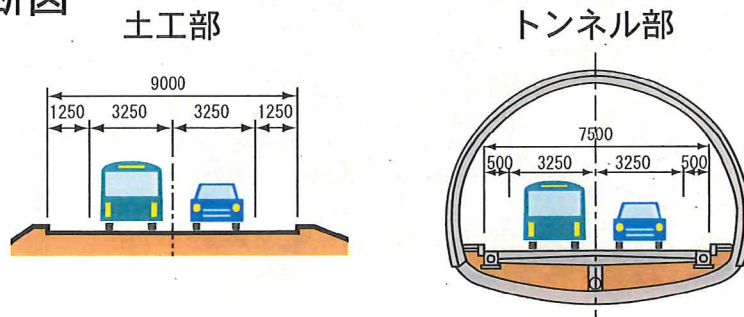
◆総事業費：約 3 3 億円

◆事業着手：平成 1 9 年度

◆完成予定：平成 2 7 年度

◆幅 員：車道 3. 2 5 m × 2 車線

標準横断面図



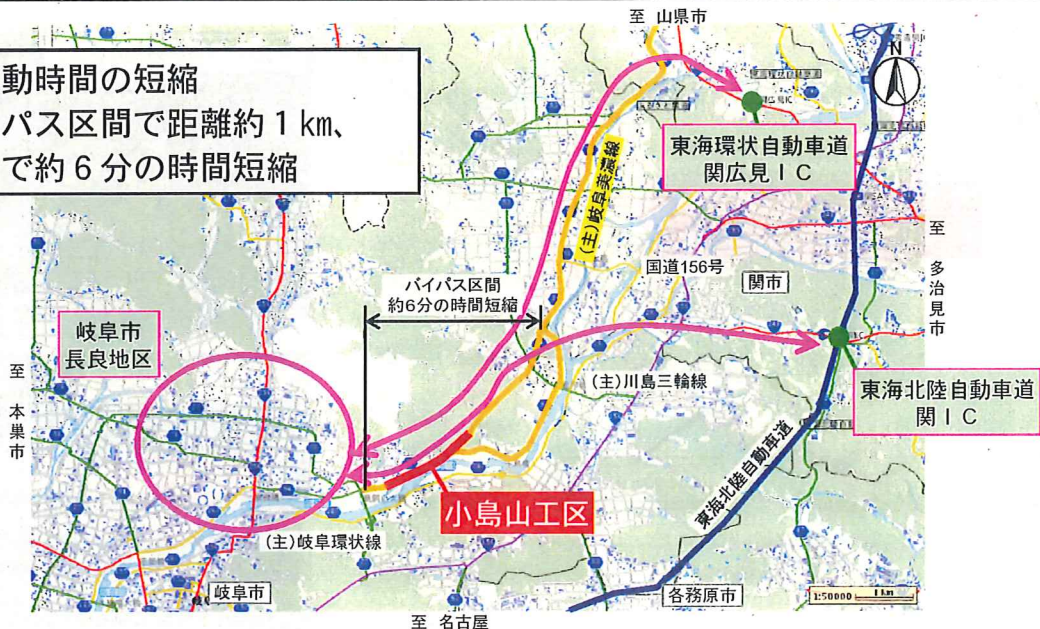
4

事業の目的①

活力：東海環状自動車道(関広見IC)、東海北陸自動車道(関IC)へのアクセス向上

■主要地方道岐阜美濃線は、岐阜市長良地区～東海北陸自動車道(関IC)、東海環状自動車道(関広見IC)への重要なアクセス道路として機能

■移動時間の短縮
バイパス区間で距離約 1 km、
時間で約 6 分の時間短縮



5

事業の目的 ②-1

安全・安心：現道に代わる新たな緊急輸送路の確保

- 主要地方道岐阜美濃線は第2次緊急輸送道路に指定
- 当該区間は、岐阜市北東部地区～岐阜市街地を結ぶ重要なアクセス路



6

事業の目的 ②-2

安全・安心：過去の災害に対応した緊急輸送路の強化

- 現道の主要地方道岐阜美濃線が、平成23年7月豪雨により被災
- 過去の災害にも対応した緊急輸送路の強化



7

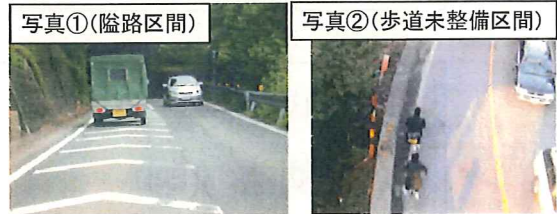
事業の目的③

安全・安心：隘路箇所解消による安全・安心な交通の確保

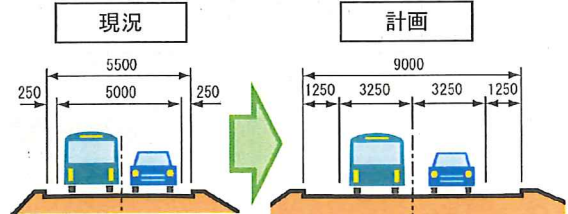
- 線形も悪く幅員狭小のため、大型車のすれ違いが困難
- 小島山工区の供用により円滑な交通を確保
- 自動車と自転車、歩行者の分離により安全性の向上



現道状況



横断面図



8

進捗状況

全体進捗率 39% ※

用地補償進捗率 85% ※

工事進捗率 36% ※

※ 平成24年度末事業費ベース



9

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 90%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 9%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 3.6 \text{ (全体)}$$

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

10

コスト縮減の取り組み

◆現場発生土の有効利用、運搬距離縮減

当初：工事間流用として、岐阜市羽島市（新濃尾大橋）へ運搬
（L＝約30km）



見直後：岐阜市の大学病院跡地造成工事へ流用
（L＝約10km）



発生土6,300m³を他事業で有効活用、運搬距離を縮減

約5千万円のコスト縮減

11

自然環境への配慮

◆希少猛禽類に配慮した工事を実施

■工区周辺に生息する希少猛禽類「サシバ」に配慮し、モニタリング調査を実施し、有識者のアドバイスを受けながら工事を実施。

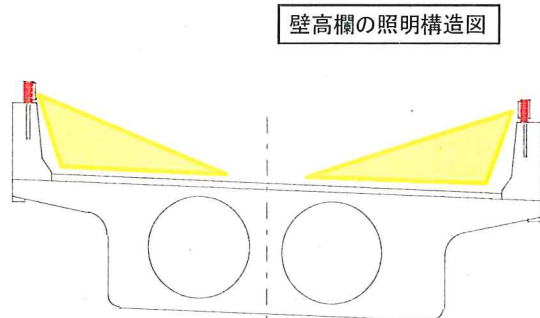


12

景観への配慮

◆環境・景観委員会を設置し、景観検討を実施

- 環境・景観委員会を開催し、アドバイザーより景観への提言(平成20年度～平成22年度)
- 景観に配慮するためCGパースなどによる擁壁の緑化検討を実施
- 鵜飼いへの車のライトの影響を少なくし、照明灯の明かりが外部へ漏れないようにするため、壁高欄の内部照明形式を採用



13

今後の方針

○(主) 岐阜美濃線 小島山工区の供用は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元自治会連合会及び岐阜市から現道の視距改善及び交通の円滑化のため、早期完成・事業促進の強い要望がある。



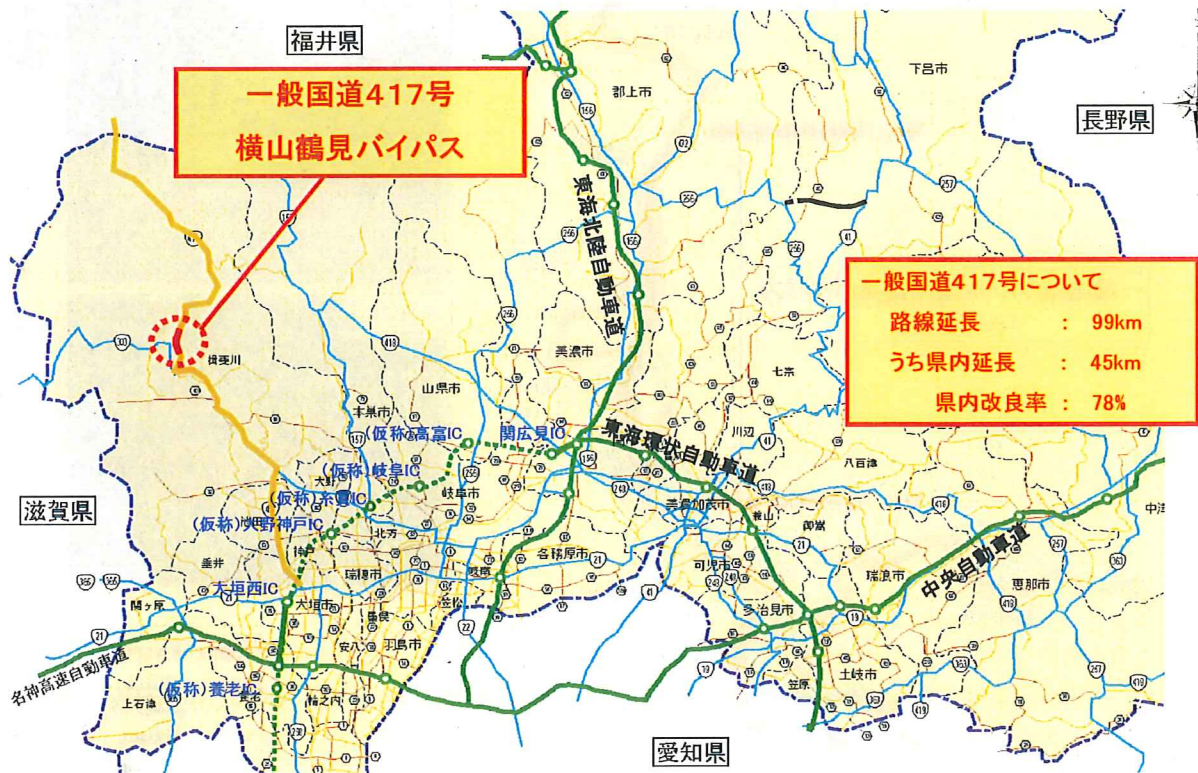
= 供用に向け、事業継続 =

事業再評価
道路改築事業

一般国道417号
横山鶴見バイパス

県土整備部道路建設課
平成24年10月

位置図①

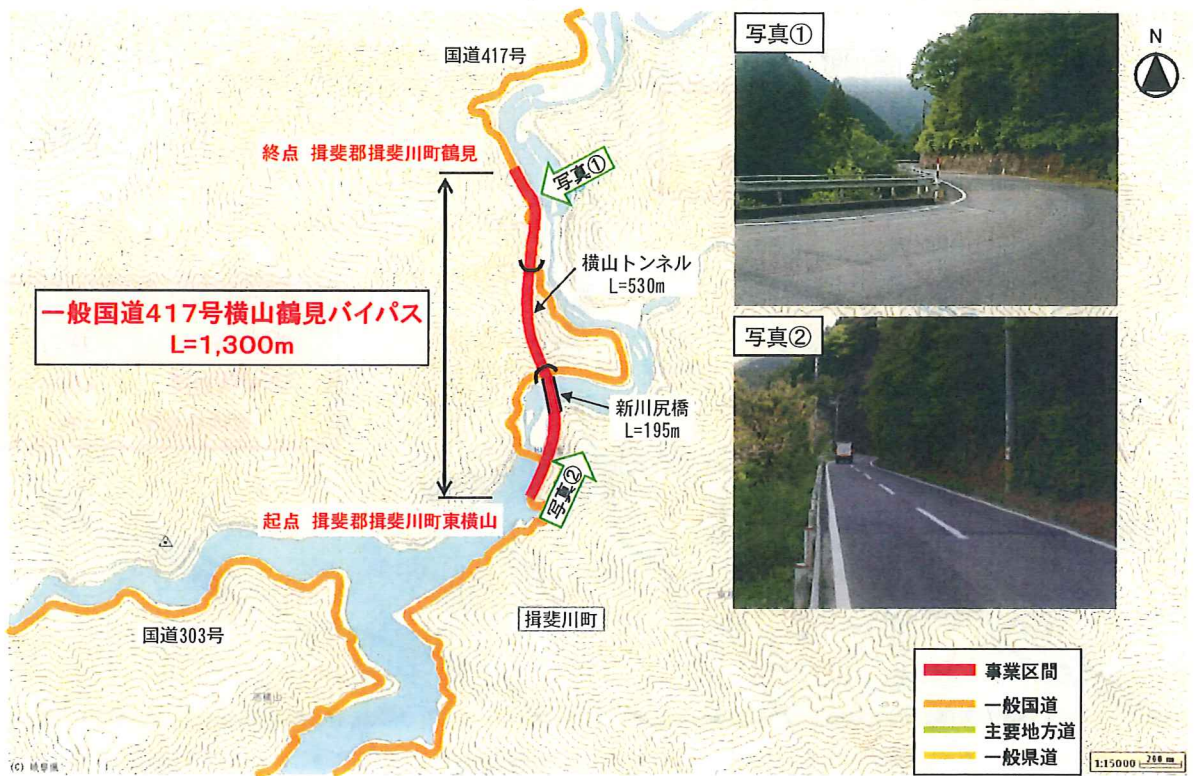


位置図②



2

位置図③

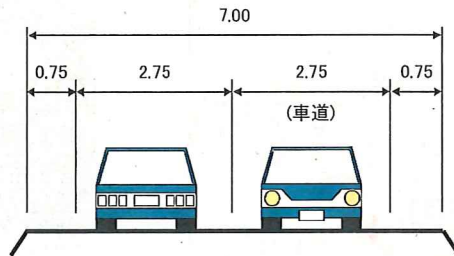


※構造物名は仮称

事業概要

- いびぐん いびがわちようひがしよこやま いびぐん いびがわちようつるみ
- ◆ 起 終 点：揖斐郡揖斐川町東横山～揖斐郡揖斐川町鶴見
 - ◆ 全体延長：1,300m
(トンネル延長L=530m、橋梁延長L=195m)
 - ◆ 総事業費：約39億円
 - ◆ 事業着手：平成20年度
 - ◆ 完成予定：平成28年度以降
 - ◆ 幅 員：車道 2.75m×2車線

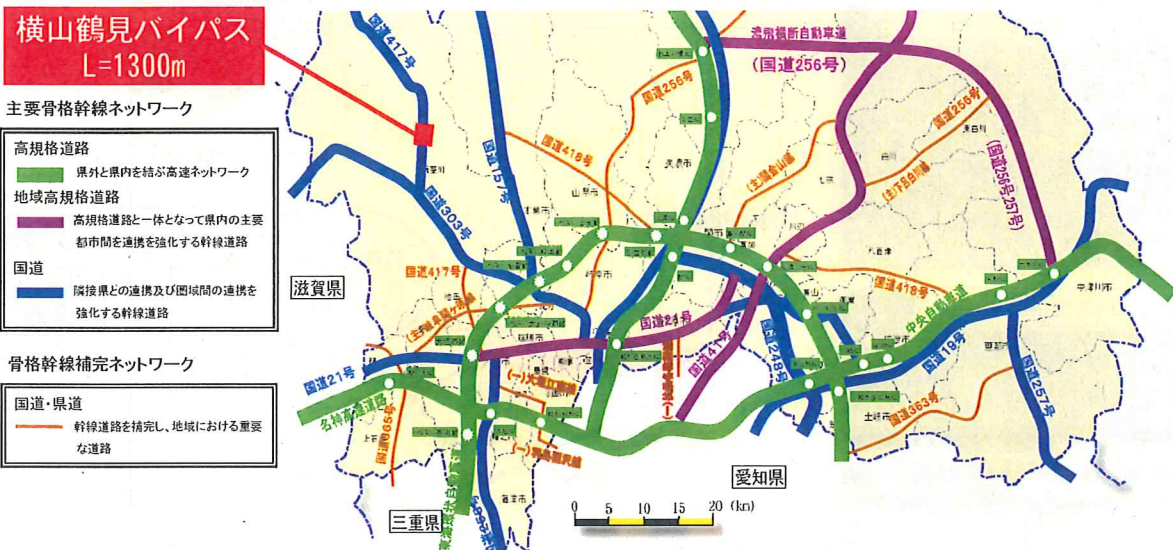
標準横断面図



事業の目的①

活力：隣接県(福井県)との連携及び圏域間の連携強化に寄与

■ 国道417号は、岐阜県の道路事業の整備方針である「県土1700km骨格幹線ネットワーク構想」のうち、「主要骨格幹線ネットワーク道路」に位置付け



事業の目的②

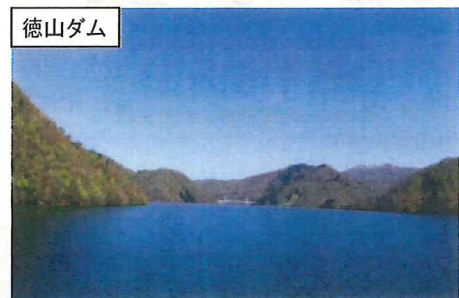
活力: 観光施設へのアクセス向上、観光振興への期待

■ 国道417号横山鶴見バイパスの整備により、『徳山ダム』や『徳山会館』などへのアクセスが向上し、更なる観光の振興が期待される。



■ 年間観光入込客数 [※1]
 徳山ダム : 17.5万人
 徳山会館 : 5.8万人

[※1]岐阜県観光レクリエーション動態調査(H22)



写真出典: 揖斐川町HPより

6

事業の目的③

安全・安心: 災害により集落が孤立することを解消

- 当該区間は、幅員狭小のため、わずかな土砂崩壊等で通行が不能となった場合、迂回路がなく集落が孤立
- 落石対策等を含めた道路改良により、集落の孤立化を解消

写真①(近年発生した落石)



写真②(近年発生した崩壊)



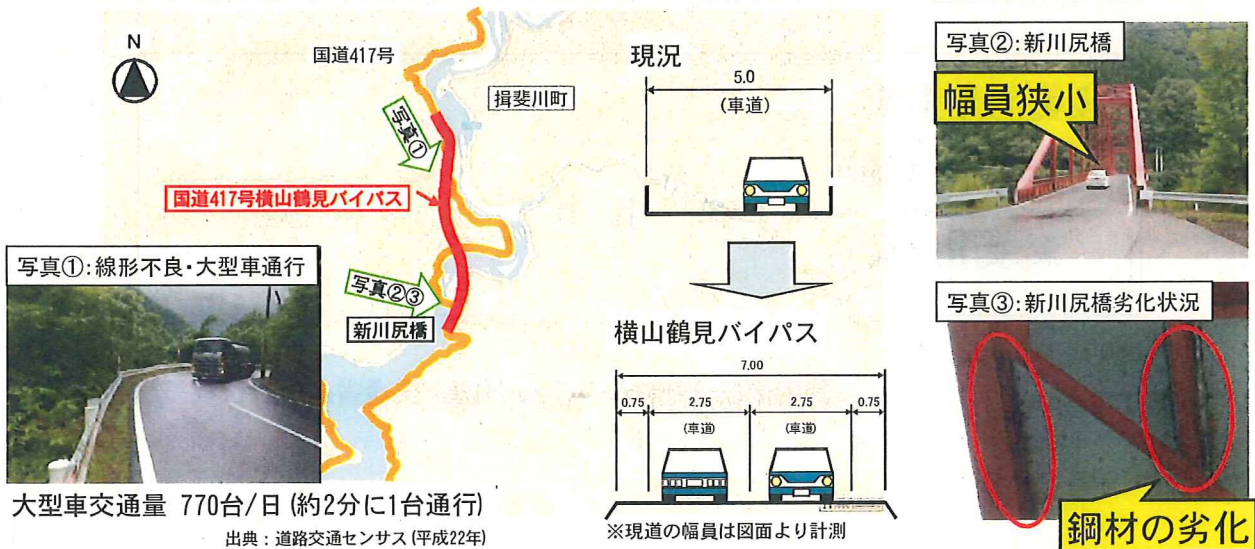
出典: 平成24年9月住民基本台帳

7

事業の目的④

安全・安心：隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保

- 当該区間は大型車両や徳山ダム等を目的とするツアーバスが運行されている。
- 新川尻橋は幅員が狭くすれ違いが困難。
- 当該区間の線形不良箇所や狭隘区間の解消により走行性が向上。



8

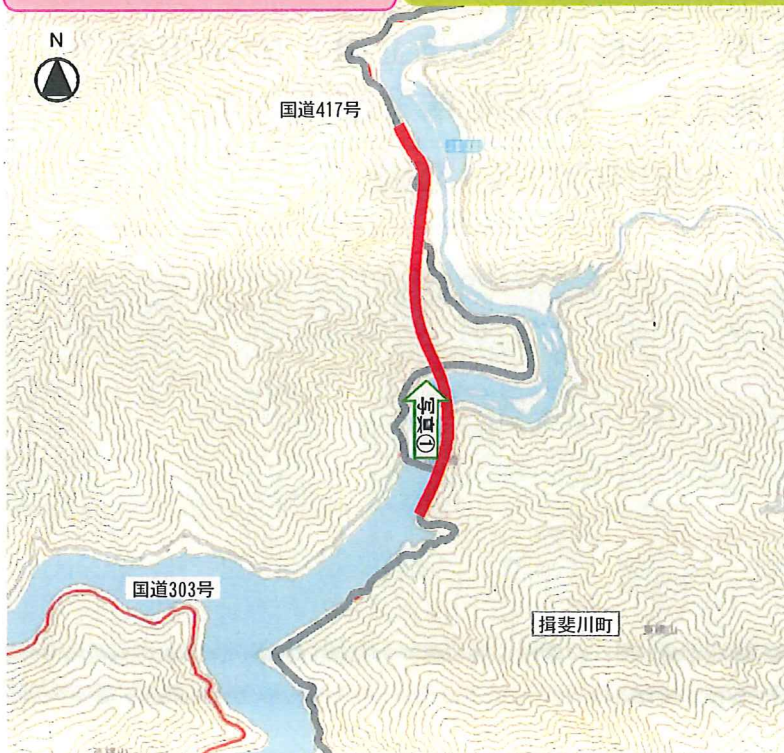
進捗状況

全体進捗率 34%*

用地補償進捗率100%*

工事進捗率 33%*

※ 平成24年度末事業費ベース



費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 90%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 9%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.1$$

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

10

コスト縮減の取り組み

◆ 下部工施工時期の調整

- 横山ダム再開発事業（湖底土砂浚渫工事）の水位低下期間に橋脚2基を施工し、仮設費等を縮減した。

約1.5億円のコスト縮減



自然環境への配慮

◆希少猛禽類に配慮した工事を実施

■工区周辺に希少猛禽類「クマタカ」の生息が確認されたため、モニタリング調査を実施し、有識者のアドバイスを受けながら工事を実施。

<事前調査>

・周辺に配慮すべき生物(クマタカ)確認



<専門家へのヒアリングおよび本調査>

・施工中の繁殖状況をモニタリング



<専門家へのヒアリング>

・工事箇所から離れており、影響はないとの結論
(日本野鳥の会岐阜)



<工事中>

・低騒音型建設機器による工事実施
・クマタカ営巣地方面に夜間照明が届かないよう照明方向に配慮
・トンネル掘削時の発破音低減のため、坑口に防音扉を設置
・橋梁架設時は、抱卵期である3月～4月のクレーン作業を抑制

希少猛禽類「クマタカ」



※クマタカ(タカ目タカ科)

●分布[岐阜県HPより引用]
北海道、本州、四国、九州に分布。県内では、飛騨市、高山市、郡上市、下呂市、揖斐川町、本巣市、八百津町などの山地帯で広く繁殖が確認されている。

●貴重性

環境省RDL 絶滅危惧IB類
岐阜県RDL 絶滅危惧II類

12

今後の方針

○横山鶴見バイパスの完成は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元商工団体、揖斐川町及び改良整備促進期成同盟会から視距改善及び拡幅を求める声があり、早期完成の強い要望がある。



=供用に向け、事業継続=

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
DEPARTMENT OF CHEMISTRY

RESEARCH REPORT
ON THE CHEMISTRY OF
THE CARBON DIOXIDE
SYSTEM

BY
J. H. VAN VAN NEST

PH.D. THESIS
SUBMITTED TO THE FACULTY OF THE DIVISION OF THE PHYSICAL SCIENCES

IN CANDIDACY FOR THE DEGREE OF DOCTOR OF PHILOSOPHY
DEPARTMENT OF CHEMISTRY

CHICAGO, ILLINOIS
1964

事業再評価 道路改築事業

主要地方道 白川福岡線 黒川工区

県土整備部道路建設課
平成24年10月

位置図 ①



位置図②



2

位置図③



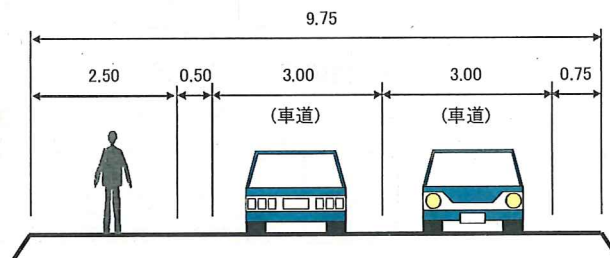
※構造物名は仮称

3

事業概要

- ◆起終点：か も ぐん し ら か わ ち ょ う く ろ か わ 加茂郡白川町黒川～か も ぐん し ら か わ ち ょ う く ろ か わ 加茂郡白川町黒川
- ◆全体延長：1,640m (橋梁延長L=102m)
- ◆総事業費：約14億円
- ◆事業着手：平成14年度
- ◆完成予定：平成28年度以降
- ◆幅員：車道 3.00m×2車線
歩道 2.50m (片側)

標準横断図



4

事業の目的①

安全・安心：災害時に有効に機能するネットワークの確保

- 現道は近年、豪雨による冠水等の災害が発生しており、災害時の救援活動や緊急物資の輸送等に支障をきたす恐れがある。

写真①



現道の冠水状況
(平成23年9月 台風15号)



写真②

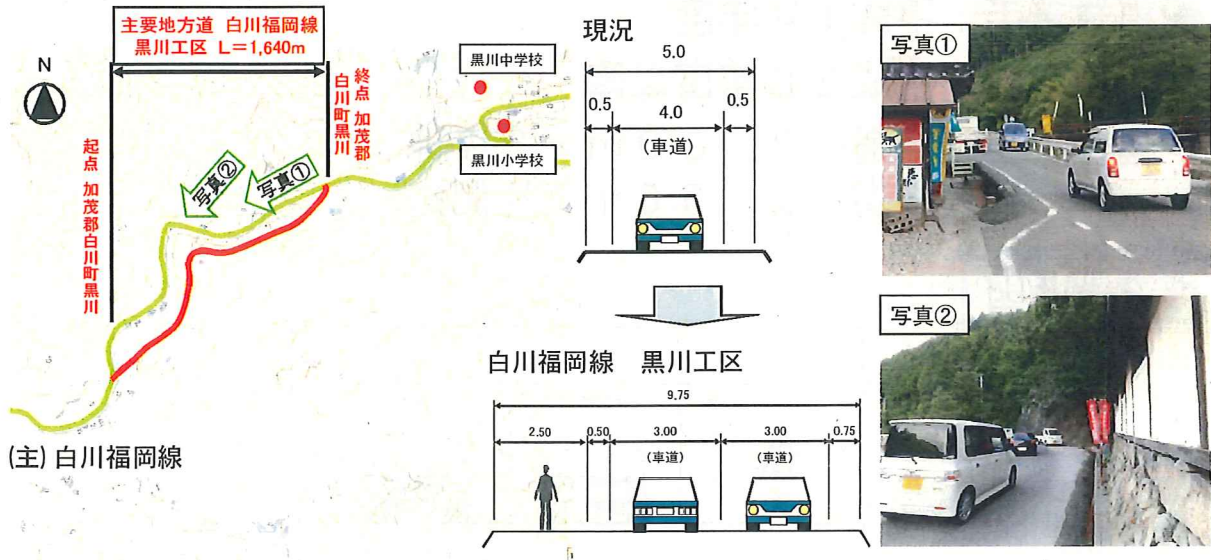


5

事業の目的②

安全・安心：隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保

- 幅員狭小区間ではすれ違いが困難
- 白川福岡線黒川工区の隘路・線形不良箇所の解消により、円滑な交通を確保



6

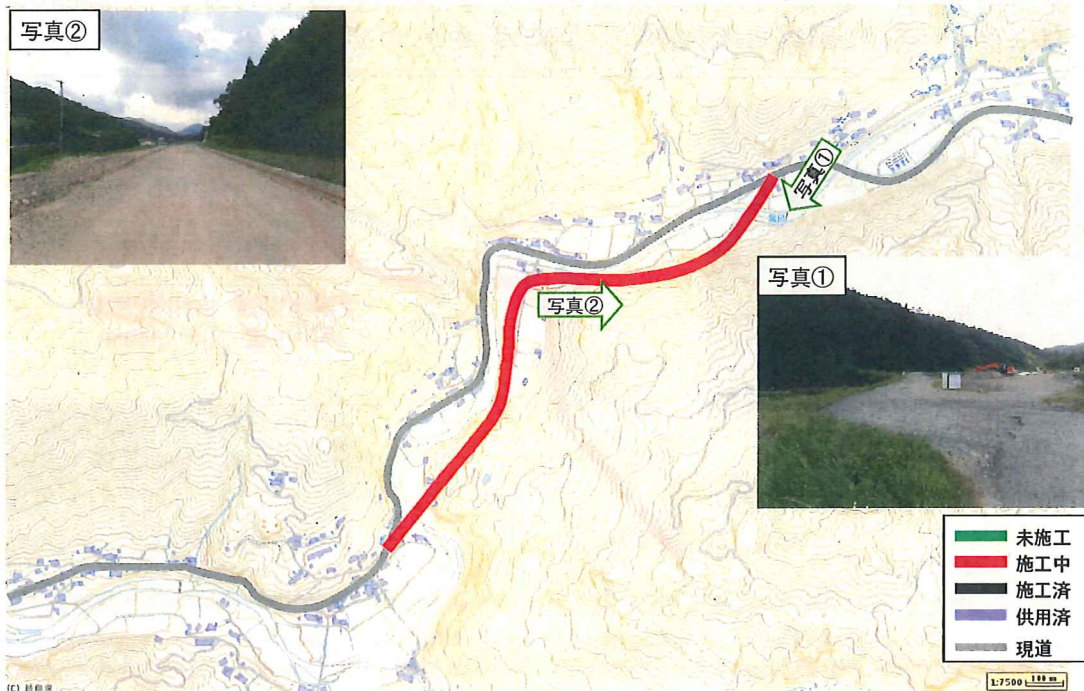
進捗状況

全体進捗率 54%*

用地補償進捗率 100%*

工事進捗率 47%*

* 平成24年度末事業費ベース



費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 92%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 7%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.3$$

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

8

コスト縮減の取り組み

◆現場発生土の有効利用、処分費縮減

当初：白川町内の民営残土処分場（要投棄料）へ運搬し、
適正処分の計画



見直後：同町内の県発注災害復旧工事及び町発注工事へ
工事間流用



発生土41,000m³を他事業で有効活用、残土処分費を縮減

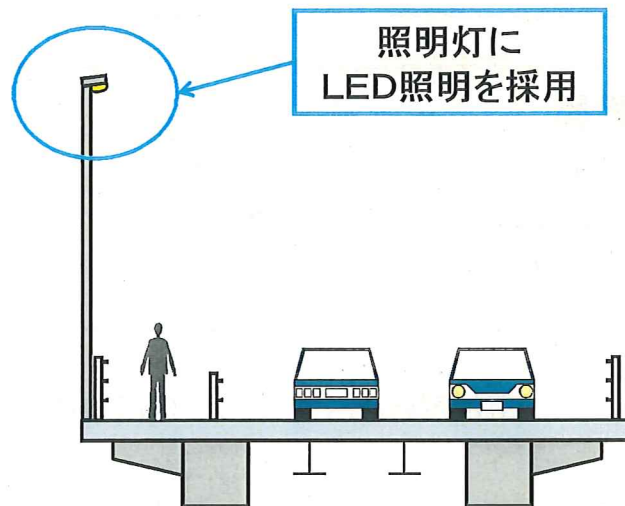
約7千万円のコスト縮減

9

自然環境への配慮

◆LED照明の採用による環境への配慮

- 長寿命かつ低消費電力であるLED照明を新設照明灯に採用し、蛍光ランプを用いた場合に比べ環境負荷を軽減する



10

今後の方針

- (主)白川福岡線 黒川工区の完成は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。
- 地元住民及び白川町から災害に強い道路整備を求め、早期完成の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

事業再評価

道路改築事業

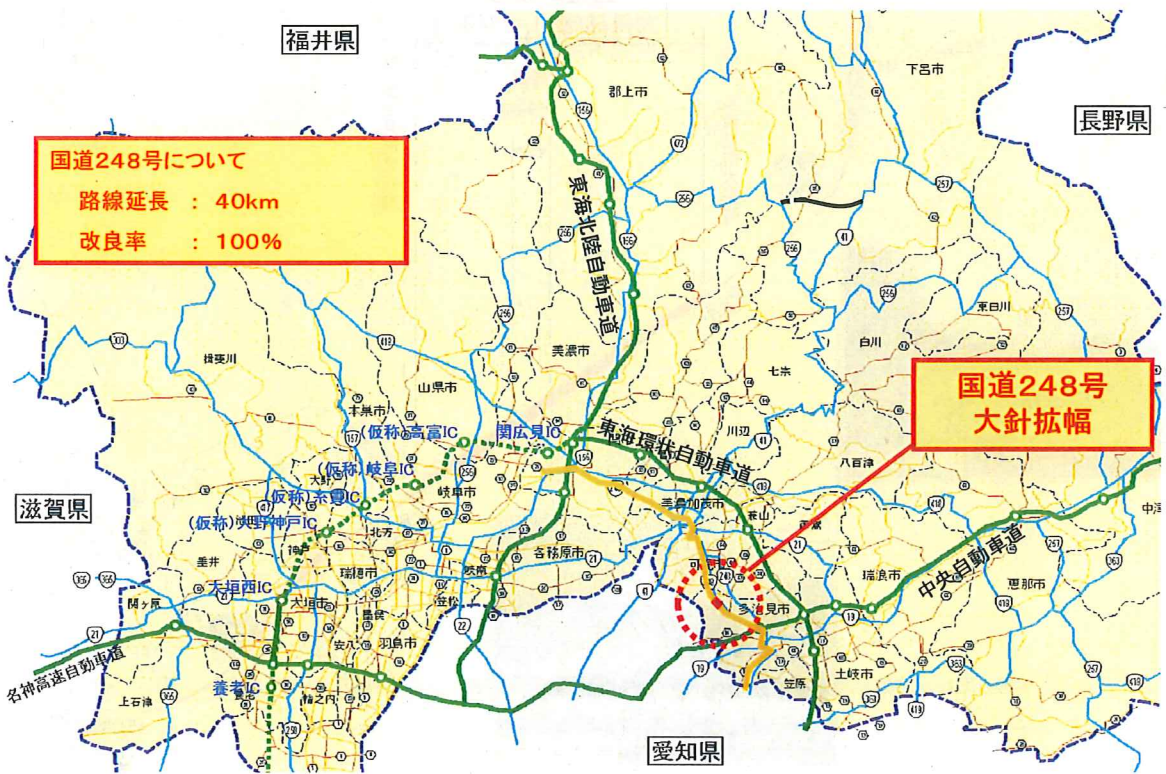
国道248号 大針拡幅

県土整備部 道路建設課

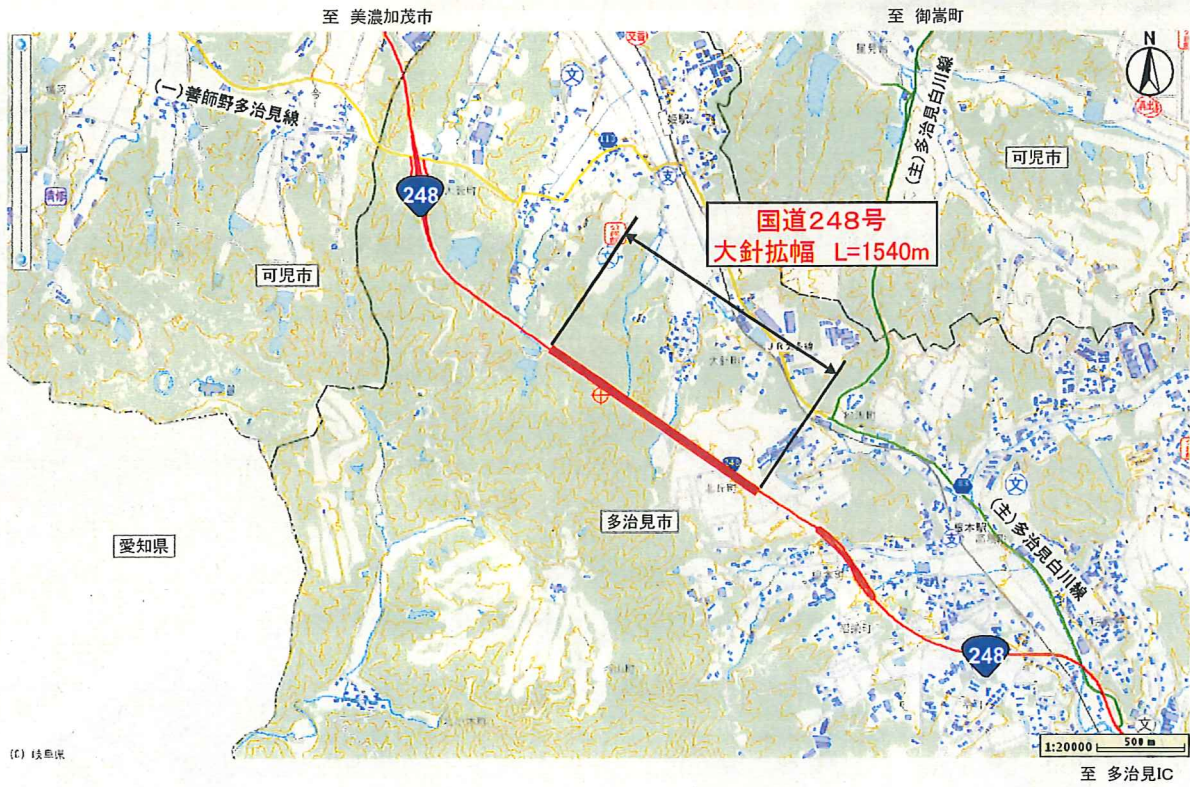
平成24年10月



位置図①

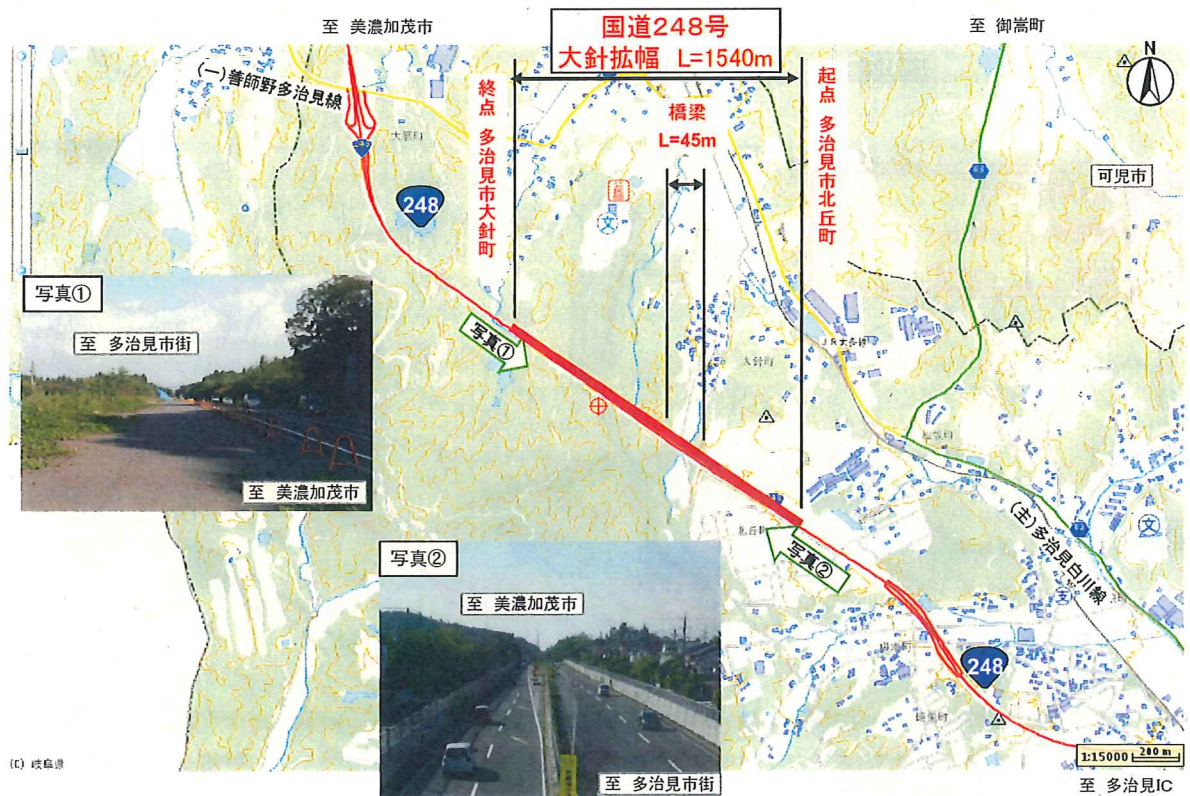


位置図②



2

位置図③

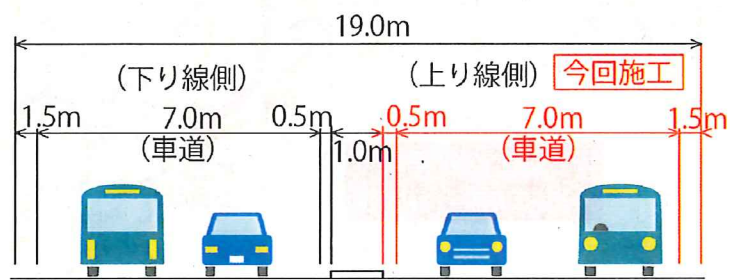


3

事業概要

- ◆起 終 点：^{たじみ}多治見市北丘町～^{たじみ}多治見市大針町 ^{おおはりちょう}
- ◆全体延長：1 5 4 0 m（橋梁延長 L = 4 5 m）
- ◆総事業費：約 1 5 億円
- ◆事業着手：平成 1 4 年度
- ◆完成予定：平成 2 8 年度以降
- ◆幅 員：車道 3. 5 0 m × 2 車線

標準横断面図

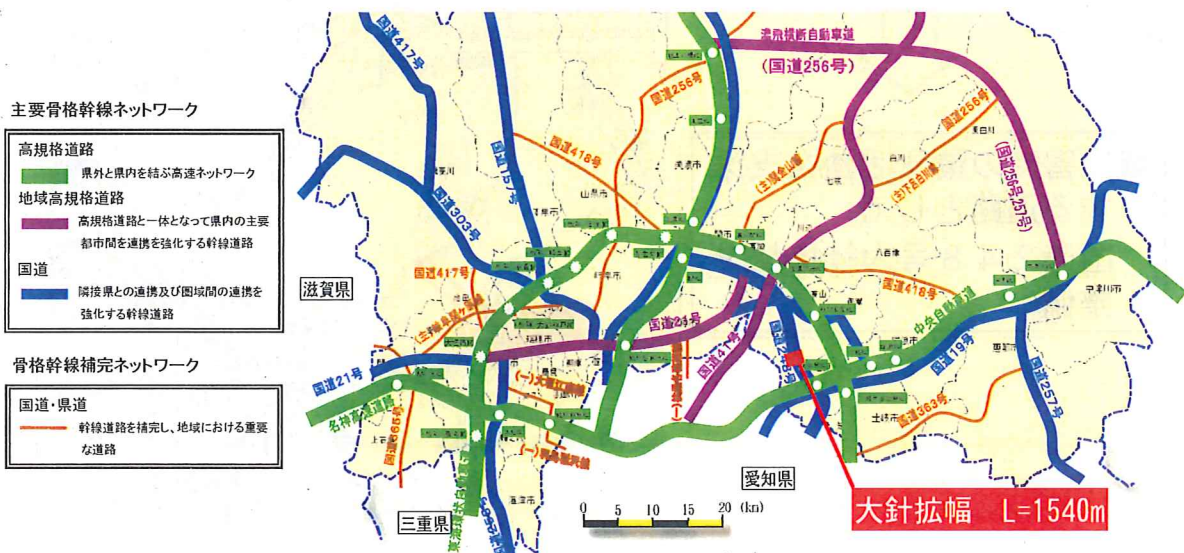


4

事業の目的①

活力：隣接県との連携及び圏域間の連携強化に寄与

■国道248号は、岐阜県の道路事業の整備方針である「県土1700km骨格幹線ネットワーク構想」のうち、「主要骨格幹線ネットワーク道路」に位置付け



5

事業の目的②

活力：東海環状自動車道を補完する幹線道路の整備

- 国道248号は、東海環状自動車道と並行し、関市～美濃加茂市～多治見市を連絡する重要な幹線道路として機能
- 大針拡幅は、幹線道路のアクセス向上の一部を担う重要な事業



6

事業の目的③

安全・安心：災害時の緊急活動を支援

- 国道248号は第2次緊急輸送道路に指定
- 国道248号は東海環状自動車道と並行し、岐阜県中濃圏域と東濃圏域を結ぶ重要なアクセス路



- 災害時の緊急活動を支援する道路として 国道248号大針拡幅を整備



7

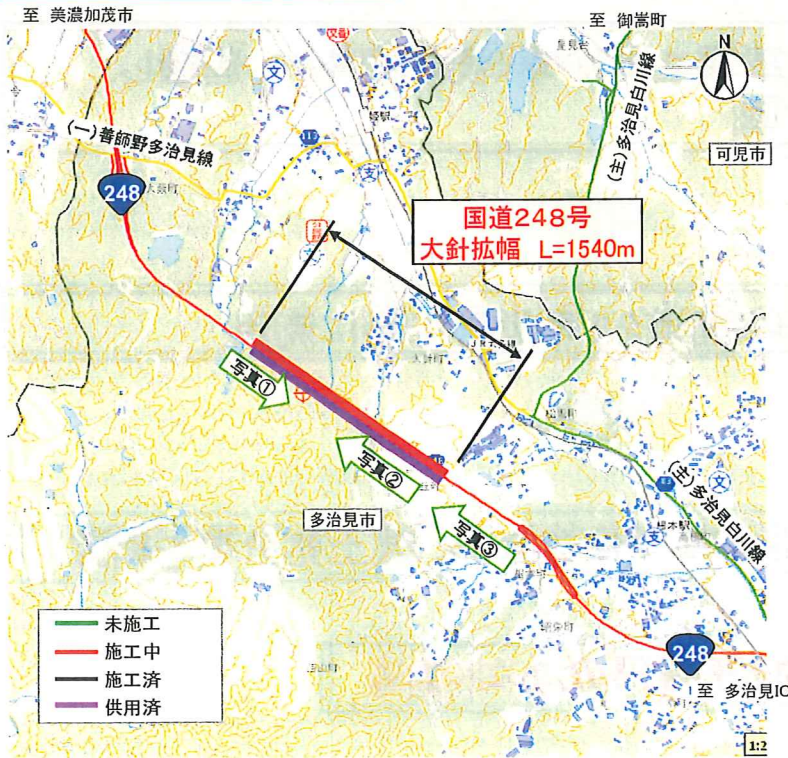
進捗状況

全体進捗率 27%※

用地補償進捗率93%※

工事進捗率23%※

※平成24年度末事業費ベース



8

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 98%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 1%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.3 \text{ (全体)}$$

※費用便益分析マニュアル(国土交通省H20.11)に基づき算出

9

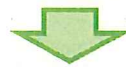
コスト縮減の取り組み

◆現場発生土の有効利用、処分費縮減

当初：土岐市内の民営残土処分場（要投棄料）へ運搬し、
適正処分の計画



見直後：国発注工事の国道21号災害工事に流用



発生土33,000m³を他事業で有効活用、残土処分費を縮減

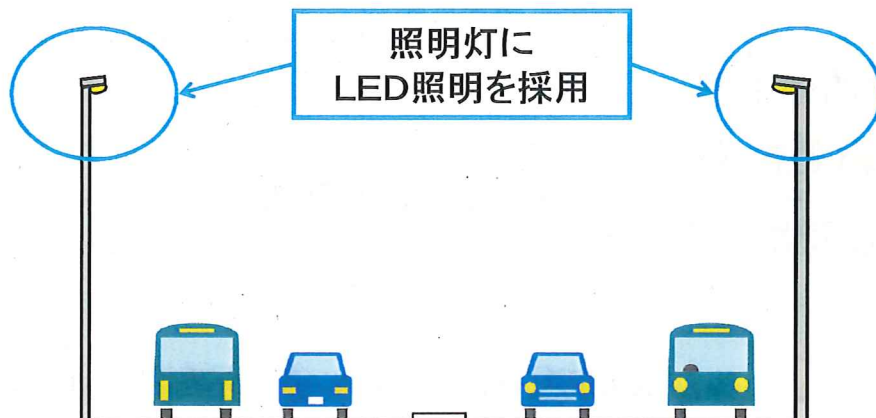
約6千万円のコスト縮減

10

自然環境への配慮

◆LED照明の採用による環境への配慮

■長寿命かつ低消費電力であるLED照明を橋梁新設照明灯に採用し、蛍光ランプを用いた場合に比べ環境負荷を低減する

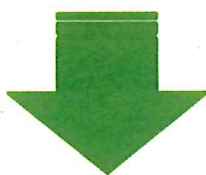


11

今後の方針

○一般国道248号 大針拡幅の供用は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元住民、多治見市及び国道協会から円滑な交通を確保するため全線4車線化に向けて、早期完成の強い要望がある。



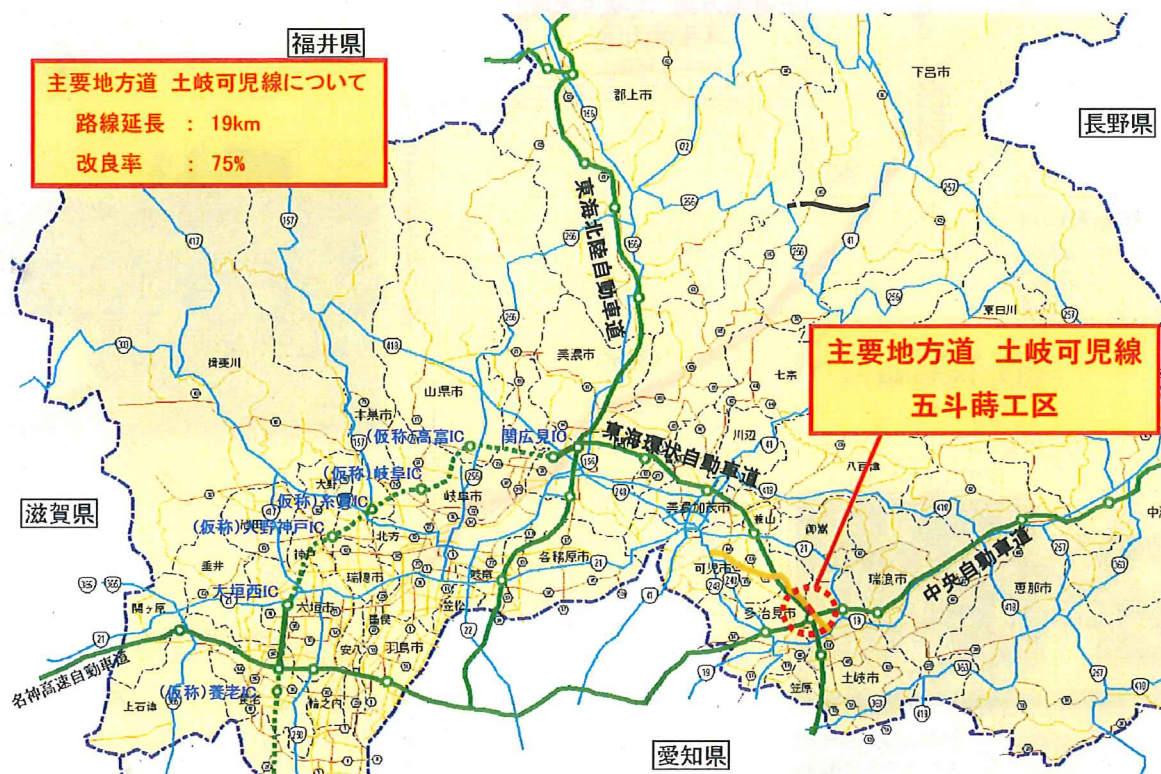
＝供用に向け、事業継続＝

事業再評価
道路改築事業

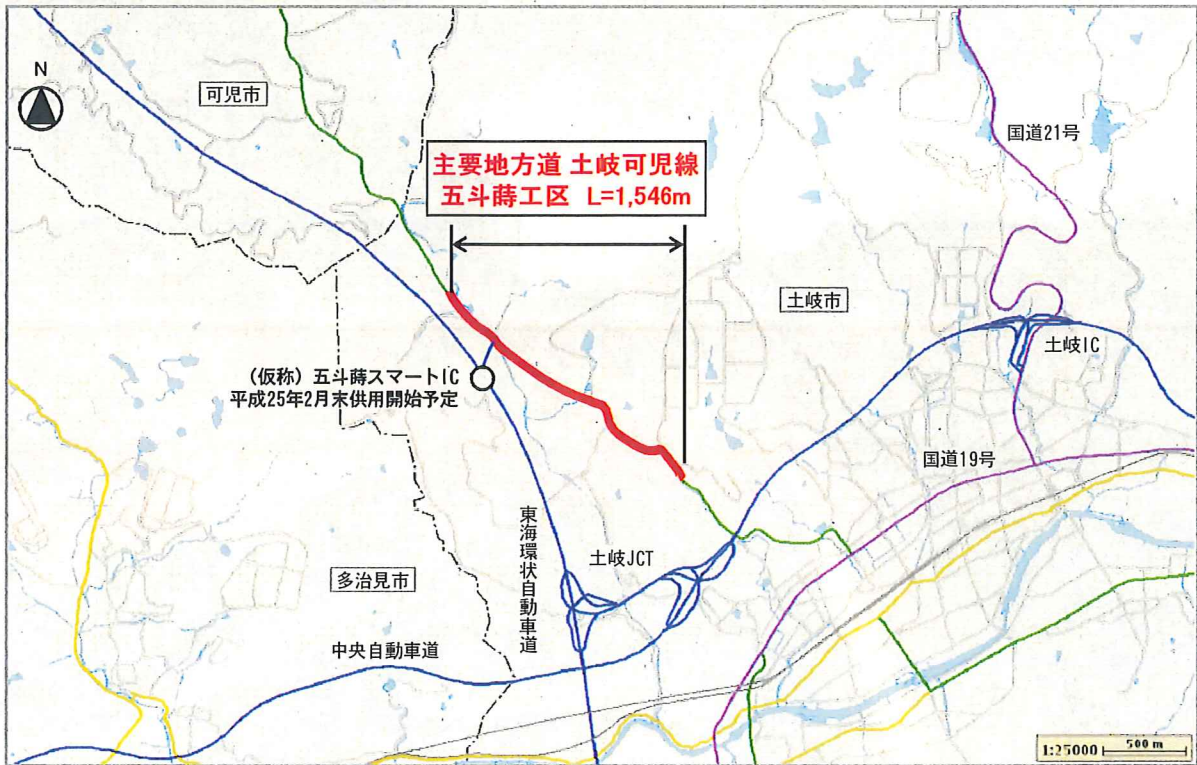
主要地方道 土岐可児線
五斗蒔工区

県土整備部道路建設課
平成24年10月

位置図 ①



位置図②



2

位置図③

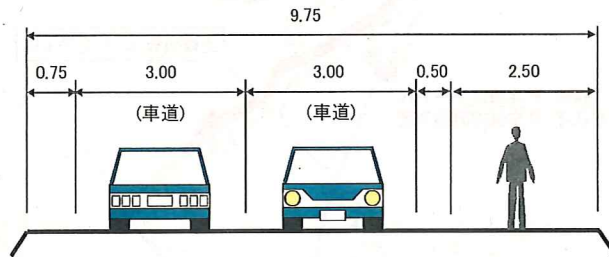


3

事業概要

- ◆ 起 終 点 : とき しいずみちょうくじりご とまき とき しいずみちょうくじりご とまき
土岐市泉町久尻五斗蒔～土岐市泉町久尻五斗蒔
- ◆ 全体延長 : 1,546m
- ◆ 総事業費 : 約16億円
- ◆ 事業着手 : 平成20年度
- ◆ 完成予定 : 平成28年度以降
- ◆ 幅 員 : 車道 3.00m×2車線
: 歩道 2.50m (片側)

標準横断図



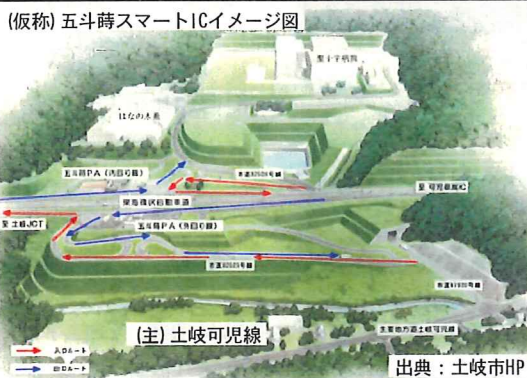
4

事業の目的①

活力: 東海環状自動車道、中央自動車道へのアクセス向上

- 主要地方道土岐可児線五斗蒔工区から東海環状自動車道(仮称)五斗蒔スマートIC(平成25年2月末供用予定)へのアクセス道路となる
- 可児市方面から中央自動車道への重要なアクセス道路として機能

- 【(仮称)五斗蒔スマートIC概要】
- (1) 連結許可日 : 平成23年3月1日
 - (2) 連結する道路 : 一般国道475号(東海環状自動車道)
 - (3) 計画交通量 : 2,600台/日
 - (4) 運営形態 : 運営形態 フルインター形式
利用方向 全方向
利用時間 24時間
対象車種 ETC車載器を搭載した全車種
 - (5) 供用開始 : 平成25年2月末 供用開始予定

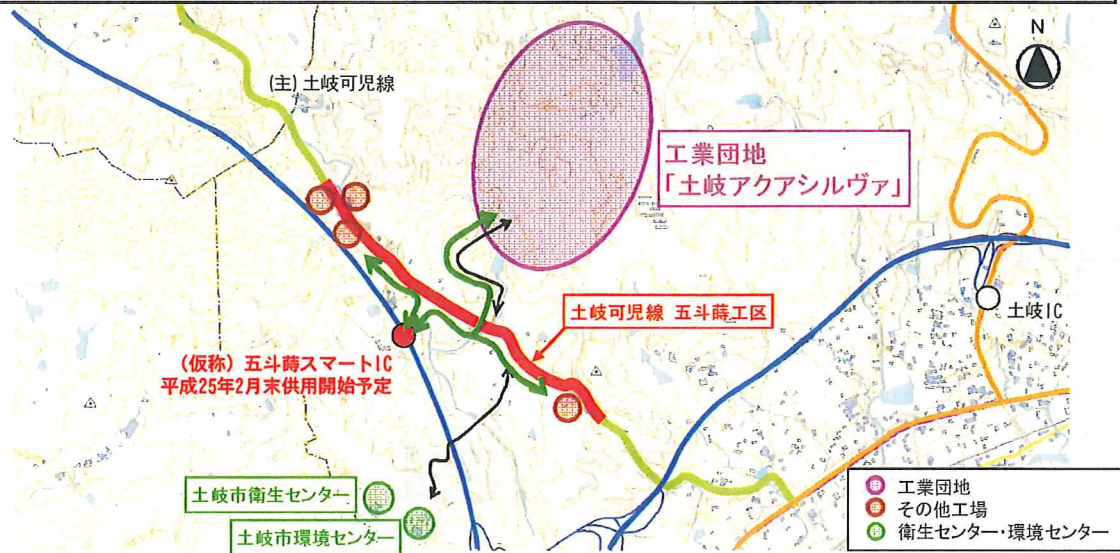


5

事業の目的②

活力: 沿線工業団地等からのアクセス向上、企業活動支援

- 沿線には工業団地「土岐アクアシルヴァ」及びその他工場、土岐市環境センター・衛生センター等が立地
- 土岐可児線五斗蒔工区の整備により高速道路へのアクセス性が向上し、企業活動を支援

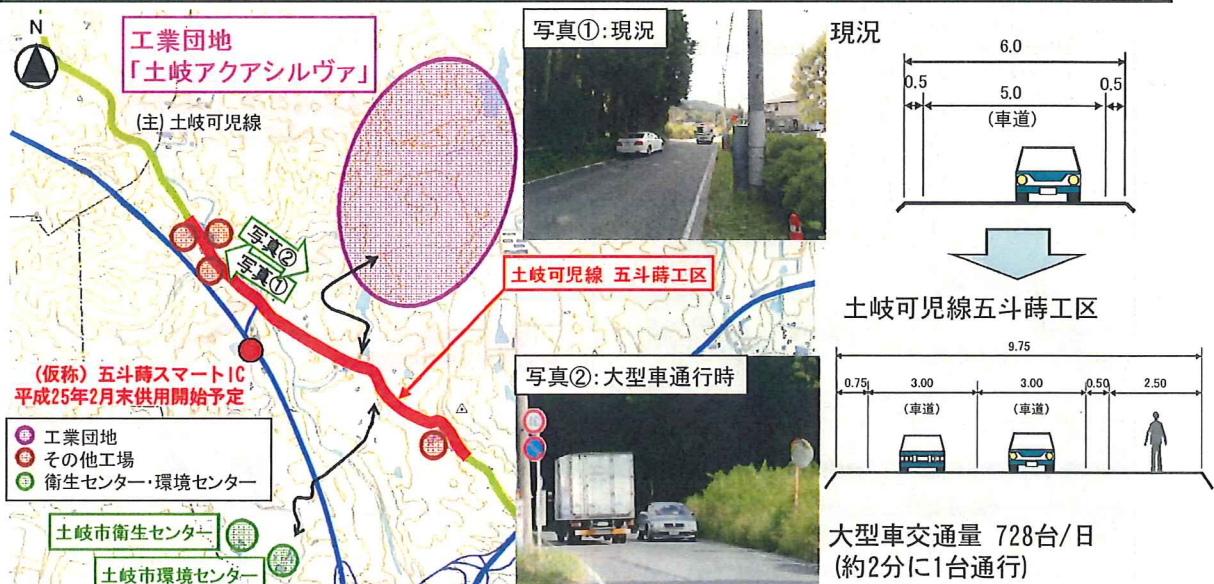


6

事業の目的③

安全・安心: 狭隘区間の解消による円滑な交通の確保

- 土岐可児線五斗蒔工区付近は工業団地が立地し、企業活動も盛んであるため、大型車両が往来する。
- 狭隘区間では車両相互のすれ違いが困難。



7

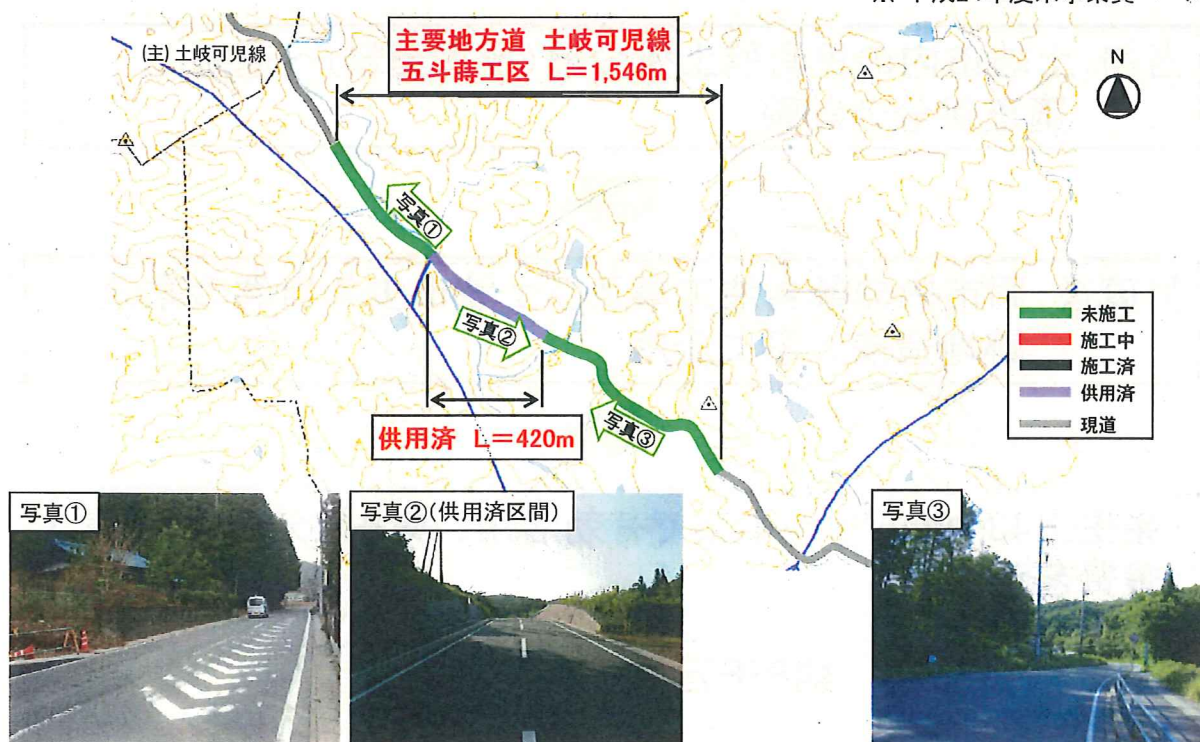
進捗状況

全体進捗率 62%*

用地補償進捗率 84%*

工事進捗率 56%*

※平成24年度末事業費ベース



8

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 94%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 5%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.7$$

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

コスト縮減の取り組み

◆現場発生土の有効利用、処分費縮減

当初：土岐市内の民営残土処分場（要投棄料）へ運搬し、
適正処分の計画



見直後：同市内の県発注工事及び土岐市少年自然の家の
跡地造成工事に流用



発生土43,000m³を他事業で有効活用、残土処分費及び運
搬費を縮減

約8千万円のコスト縮減

10

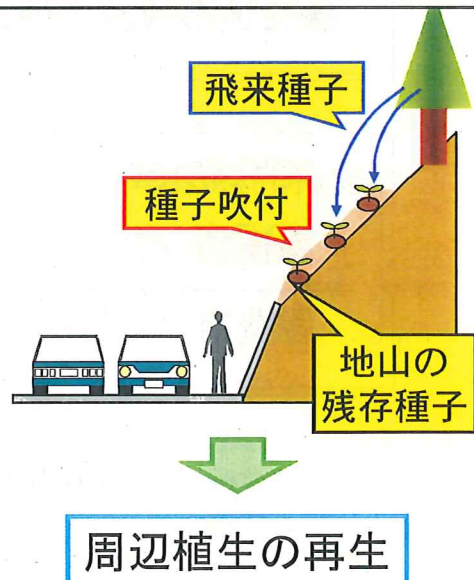
自然環境への配慮

◆施工法面の緑地回復

■五斗蒔工区で発生した切土法面において、在来種による
植生状況への回復を行うことで緑地の回復を図った。



法面緑化断面



今後の方針

○五斗蒔工区の完成は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元住民及び土岐市からスマートICへのアクセス向上のため、早期完成の強い要望がある。



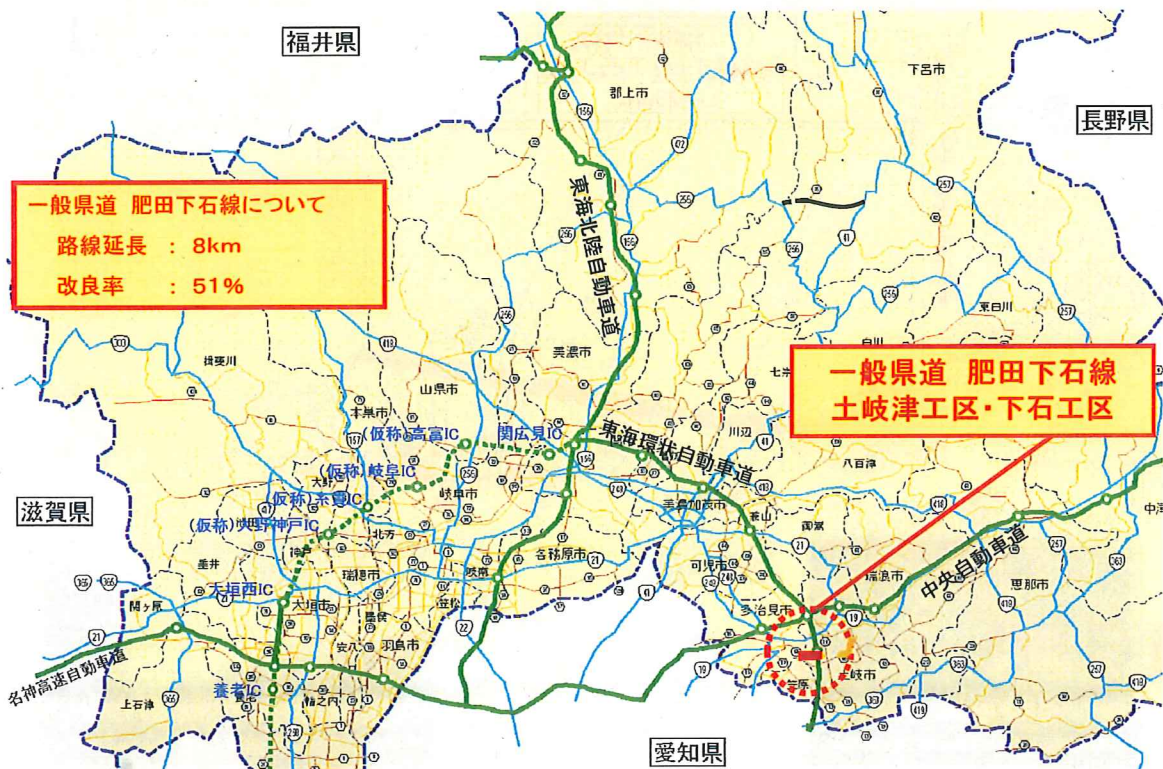
＝供用に向け、事業継続＝

事業再評価
道路改築事業

一般県道 肥田下石線
土岐津工区・下石工区

県土整備部 道路建設課
平成24年10月

位置図 ①

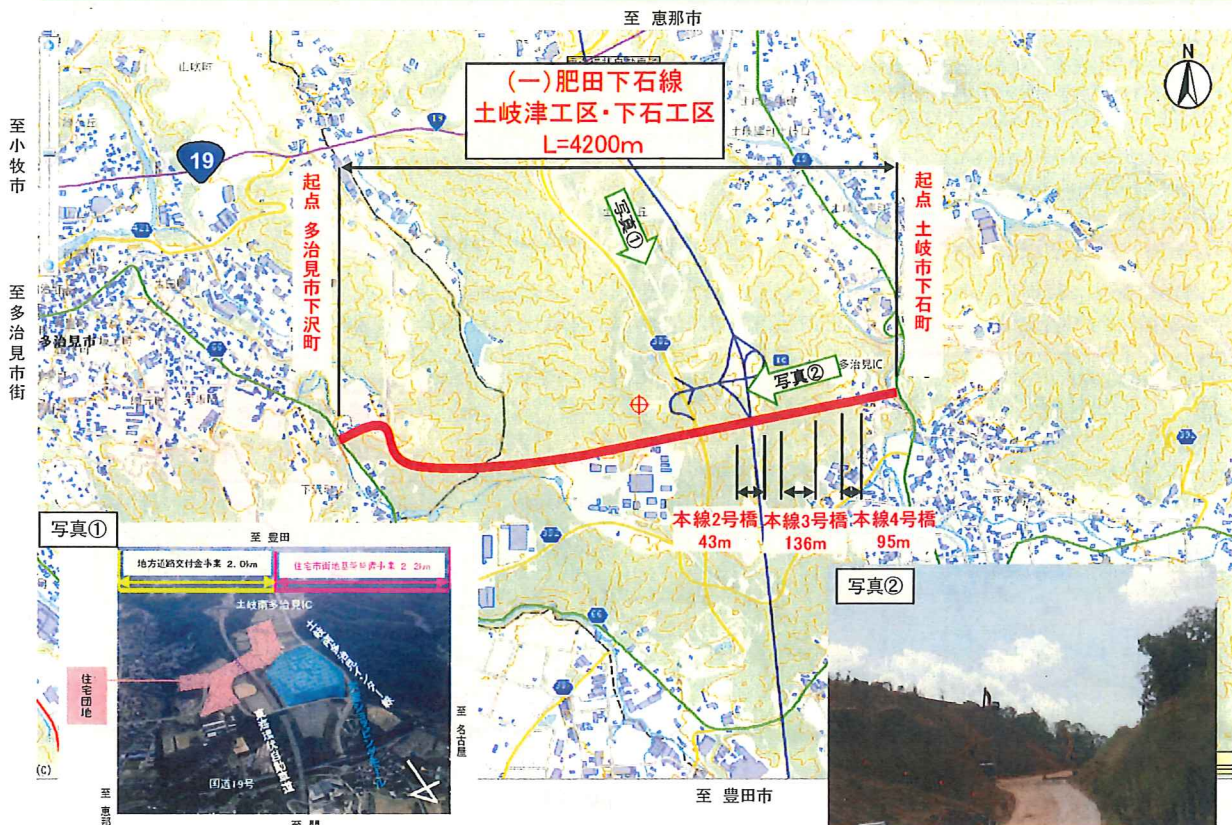


位置图②



2

位置图③

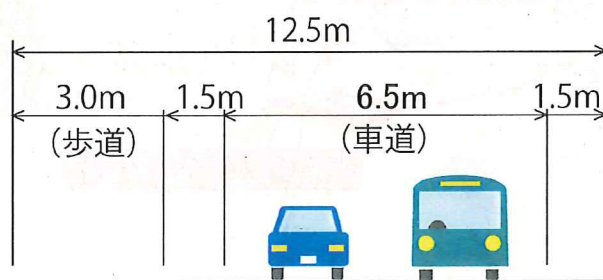


3

事業概要

- ◆起 終 点：多治見市下沢町たじみ～土岐市下石町しもぎわちよう
- ◆全体延長：4 2 0 0 m (橋梁延長 L = 2 7 4 m)
- ◆総事業費：約 1 4 6 億円
- ◆事業着手：平成 1 0 年度
- ◆完成予定：平成 2 8 年度以降
- ◆幅 員：車道 3. 2 5 m × 2 車線
歩道 3. 0 0 m

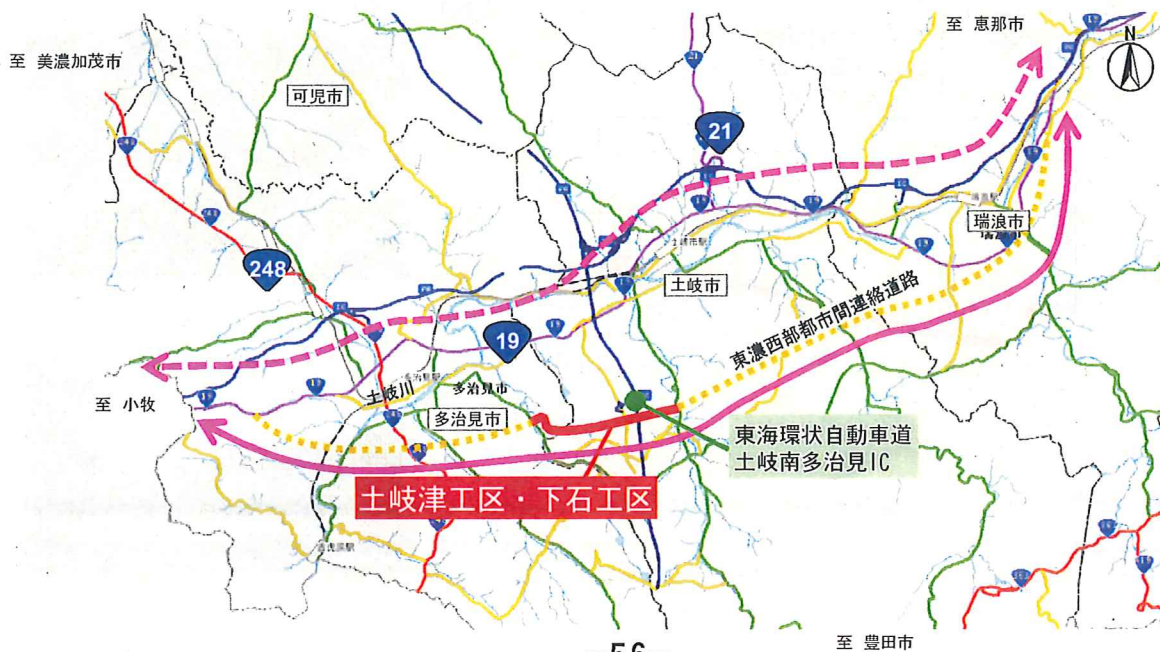
標準横断面図



事業の目的 ①

活力：国道19号の代替路として機能

■国道19号の代替路として、多治見市～瑞浪市間の交通を支援する重要なアクセス道路の一部として機能



事業の目的②

活力: 東海環状自動車道(土岐南多治見IC)へのアクセス向上
と新たな地域開発の支援

■多治見市、土岐市から東海環状自動車道(土岐南多治見IC)へのアクセスが向上し、新たな地域開発を支援



6

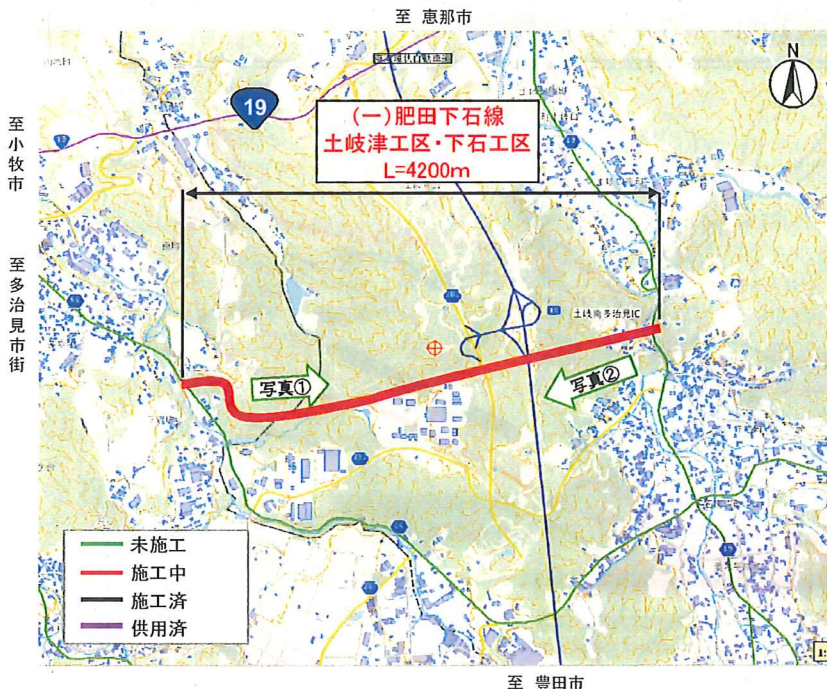
進捗状況

全体進捗率 41%※

用地補償進捗率74%※

工事進捗率33%※

※平成24年度末事業費ベース



7

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 82%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 15%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 3%

投資的効果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.2 \text{ (全体)}$$

前回再評価時(H19年)
1.9

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

8

コスト縮減の取り組み

◆現場発生土の有効利用、処分費縮減

当初：土岐市内の民営残土処分場（要投棄料）へ運搬し、
適正処分の計画



見直後：土岐市公園造成工事、瑞浪市地滑り工事及び
国道21号災害復旧工事へ流用



発生土60万m³を他事業で有効活用、残土処分費を縮減

約15億円のコスト縮減

9

自然環境への配慮

◆希少植物（シデコブシ）の保全

- シデコブシ群生地を保全するため、一部移植するとともに、影響が最小限となるよう、盛土形状から垂直擁壁（補強土壁）に変更

※シデコブシ(離弁花植物 モクレン科) [岐阜県HPより引用]

- 分布
東海地方に固有の種。本州中部地方の伊勢湾に面した地域に分布。県内では美濃地方東部の東濃地域を主体とした地域に分布。
- 貴重性
環境省RDL 絶滅危惧Ⅱ類、岐阜県RDL 準絶滅危惧



◆希少猛禽類に配慮した工事推進

- 近隣にオオタカ営巣地があり、有識者アドバイスやモニタリングにより、繁殖期間中は工事を中止し、ヒナの行動や巣立ちを確認したのち、工事を再開。

※オオタカ(タカ目タカ科) [岐阜県HPより引用]

- 分布
北海道、本州、四国で繁殖する。近年、九州でも繁殖が確認された。県内では、高山市、下呂市、郡上市、山県市、多治見市、本巣市など県下全域に確認記録がある。
- 貴重性
環境省RDL 絶滅危惧Ⅱ類、岐阜県RDL 準絶滅危惧



10

今後の方針

○(一) 肥田下石線 土岐津工区・下石工区の供用は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元建設推進協議会、多治見市及び土岐市から東海環状道路や市街地へのアクセス向上のため、早期完成の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

11